

京両替店別宅手代・林与七の活動記録

下向井 紀彦

林家文書と林与七について

林家文書は京両替店の奉公人であった林与七に由来する史料群である。二〇一三年に三井相続会の調査を行った際に林家より借用し、その後の資料整理を経て、二〇二五年に三井文庫で受贈した。

本史料群は全部で八点からなり、大正期に三井家で作成・配布した「便暦」一点を除き、七点は全て二代目・林与七の作成したものである。初代・二代の林与七について、以下略歴を列記しておきたい（解説末の**第1表**も参照）。

初代林与七は、安永二年（一七七三）三月に京両替店に出勤する。最初は与七郎と名乗っており、寛政元年（一七八

九）四月十六日に支配に就任している。寛政九年（一七九七）七月二十六日に暖簾分けを受けて通勤支配となり、同日与七と改名している。以後別家として引き続き京両替店に勤仕しており、文政年間に発生した三井同族の借財に端を発する「文政縛合」に幹部である浅井文右衛門とともに紀州藩に働きかけを行うなど、三井の危機対応に尽力した。文政七年（二八一〇）正月二十六日に別宅の最高位である元締に就任するが、翌年二月十五日に亡くなる。

二代目の林与七は文化九年（一八一二）五月に京両替店に出勤開始する。最初は小林重次郎と名乗っており、文政十三年（一八三〇）二月十六日に支配となり、同年六月二日に林姓に改名する。天保八年（一八三七）三月十六日に暖簾分け

を受けて通勤支配となり、翌月二十二日に与七名前を継承し、林家を相続した。林与七名前で京両替店の幹部として引き続き勤仕し、嘉永元年（一八四八）九月十六日に元方掛名代となり、そこが最終職階となった。嘉永五年（一八五二）十月二十一日に亡くなる。

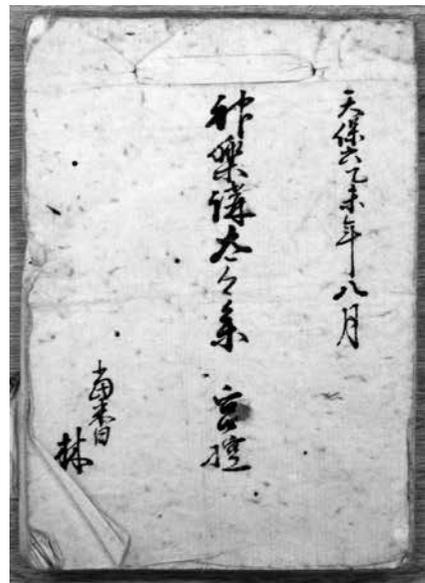
本稿で紹介する林与七の史料は、この二代目の別宅時代に作成されたものであり、別宅でありながら三井の任務をこなす幹部の具体像に迫ることのできる格好の材料となっている。以下、林家文書の各史料について、概要を略述し、便歴を除いた全史料について翻刻文を掲載したい。

各史料の概要について

1 神楽講太々参宮控（天保六年）

横半帳、縦一六・七cm、横一一・七cm、三六丁

近世三井の事業部門では、しばしば公式行事として伊勢参詣を行っていた。伊勢御師の邸宅において「太々神楽」という神楽を奉納した。三井の各営業店舗の支配人たちが伊勢を訪れ、御師宅において太々神楽の奉納を見届けた。この史料は林与七（当時の名前は重次郎）が太々神楽に参加するために派遣されたときの日記である。与七は当時京両替店の支配人であったことから選抜されたものと思われる。本日記には、太々神楽に参加後、伊勢から大坂に向かうまでの行程が記さ



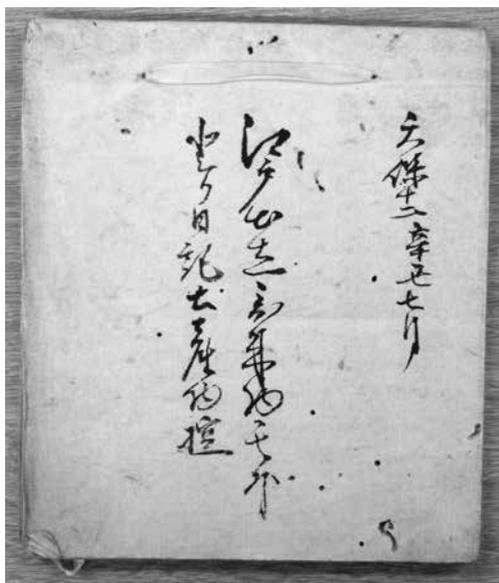
第1図

れている。天保六年（一八三五）八月に神楽講を実施したよう、京都から伊勢への往路や太々神楽そのものの内容は記載されていないものの、八月十日から十九日にかけて、松坂方面・奈良方面を経由して大坂に向かったことがわかる。途中、吉野山の人見千本桜や蔵王権現、高野山、住吉大社などを見物し、大坂滞在中も天保山や西御堂などに出かけ、人形芝居も見物している。



第2図

2 控（宿入通勤支配役昇進次第）（天保八年）
横半帳、縦一六・七cm、横一二・二cm、三六丁
天保八年（一八三七）七月、与七は林家を相続することになった。与七はこのとき三井から独立しつつ、通勤手代（自分の店と家を持ち、妻帯を許される幹部クラスの奉公人）として、引き続き三井の幹部の一人として奉公を続ける。本日は与七が独立を認められた際の各種行事の記録である。関係者からの贈り物やそのお礼、祝儀の献立などが記される。



第3図

3 江戸出立到来物其外登り日記土産物控（天保十二年）
横半帳、縦一六・〇cm、横一三・五cm、二三丁
幹部として三井に勤める与七は、天保十二年（一八四二）頃に何らかの特別任務のために江戸に詰めていたらしい。本日記は、江戸での任務を終えて帰京する際に書き残した記録である。江戸を発つ際に、江戸で世話になった人々から贈られた物品や、京都の関係者への土産物を記載しつつ、帰京の

道中の記録などを記す。このときは天保十二年七月二十二日の暁七つ時に江戸を出発し、中山道を通って八月五日に京都に帰着している。

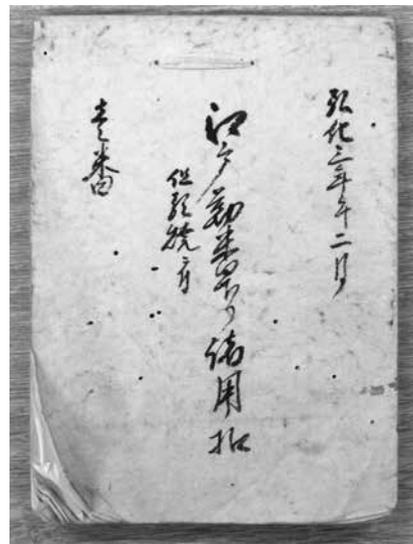
4 江戸勤番下り諸用扣(弘化三年)

横半帳、縦一六・三cm、横一一・五cm、四〇丁

5 江戸勤番諸用留(弘化三年)

横半帳、縦一六・五cm、横一二・〇cm、三八丁

4・5は、与七が弘化三年(一八四六)に特別任務のために江戸に向いた際の記録である。弘化二年正月十五日に江戸で大火が発生し、三井の店舗のみならず、江戸両替店の所有している多くの不動産物件が焼失した。与七はこの焼失物件の被害状況調査などのために江戸に向かい、江戸両替店の重役らと協力して任務にあたっている。本日記は江戸下向に際して饒別に送られたものや、帰京時に土産物として用意したものととも、道中や江戸滞在時の活動を記している。二月二十三日に京都を出発し、三月五日に江戸に到着したあと、七月二十五日まで江戸で活動したようだ。「江戸勤番下り諸用扣」は二月二十三日〜五月二十一日、「江戸勤番諸用留」は五月二十二日〜七月二十五日までの記録である。江戸での幹部級奉公人の仕事内容や付き合い、余暇の過ごし方など具体的な活動が見られる史料として興味深い。



第4図



第5図



第6図

6 牧野様御使者上京一件記録（弘化四年）

縦冊、縦一七・〇cm、横一二・五cm、五九丁

弘化四年（一八四七）九月二十一日、仁孝天皇の即位式が挙行された。各大名が京都に使者を派遣するなかで、牧野家も使者を京都に派遣した。牧野家は三井の恩顧の大名で、様々な御用を引き受けるなど関係の深い大名だった。この行事に際し、三井は牧野家の使者の世話をすることになったようだ。林与七は京両替店から、京都滞在中の牧野家の使者の世話を命じられ、使者が京都に到着した九月三日から江戸に



第7図

向けて出発する十月十三日まで、世話係として活動している。

7 掛物控（嘉永元年）

縦冊、縦二四・六cm、横一七・五cm、一七丁

林与七の所有していた絵画の一覧である。嘉永元年時点で、雪舟や狩野探幽などの絵画を約八〇点所有しており、番号を振って管理していたことがわかる。

8 便曆(大正九年)

一紙、縦一一・〇cm、横三七・五cm

元号の一覧と、和暦の遡り年数を記載した早見表。北家七代三井高就(一七八六〜一八五七)の手がけたもので、近代以降も内容を更新して印刷していた。現在でも毎年印刷し、関係者に配られている。

凡例

- 一、字体は原則として通用の字体を用いたが、固有名詞や慣用語などで原本通りとした場合もある。
- 一、変体仮名は現行の仮名に改めたが、平仮名・片仮名の表記は原文のままとした。
- 一、読みやすくするため、適宜読点、並列点を加えた。また、内容に即して適宜項目を立て、通し番号と小見出しをつけた。
- 一、版面の都合により、一部の文言について原本と異なる配置とした。
- 一、本文中で傍線の附されている箇所には傍線を加えた。
- 一、本文中で丸括弧の附されている箇所は丸括弧のまま表記した。
- 一、判読不能の文字は□で記した。また、虫損や史料の破損等により判読困難な文字は■で記した。
- 一、誤字や必要と思われる箇所には、適宜丸括弧で行間に注記を入れた。
- 一、本文中の表現は歴史的用語として、史料通りに翻刻した。
- 一、本稿の作業従事者は下向井紀彦・秋葉直子である。下向井が原稿を作成し、下向井・秋葉で校訂を行った。最終的な責任は下向井が負う。



第8図

第1表 林与七（初代・二代目）の京両替店における職歴

名前	年月日	職歴	
初代・与七	林与七郎	安永 2年 (1773) 3月	京両替店へ出動
		天明 7年 (1787) 2月16日	組頭
	林与七	寛政元年 (1789) 4月16日	支配
		寛政 9年 (1797) 7月26日	通勤支配, 同日与七と改名
		寛政 12年 (1800) 2月16日	後見
		文化元年 (1804) 3月25日	名代
		文化 4年 (1807) 10月14日	元方掛名代
		文化 6年 (1809) 9月16日	掛名代格
		文化 8年 (1811) 2月16日	元方掛名代
		文政元年 (1818) 11月16日	加判名代
二代目・与七	小林重次郎	文政 8年 (1811) 2月16日	組頭格
		文政 10年 (1827) 2月16日	組頭
		文政 11年 (1828) 2月16日	支配格
		文政 13年 (1830) 2月16日	支配
		文政 13年 (1830) 6月2日	林と改名
	林与七	天保 8年 (1837) 3月16日	通勤支配
		天保 8年 (1837) 4月22日	与七と改名
		天保 8年 (1837) 7月	林家を相続.
		天保 9年 (1838) 3月16日	後見格
		天保 11年 (1840) 2月16日	後見
		天保 14年 (1843) 3月16日	名代
		弘化 3年 (1846) 2月16日	勘定名代 (元方掛名代見習)
		嘉永元年 (1848) 9月16日	元方掛名代
嘉永 5年 (1852) 10月21日	死去		

1 神楽講太々参宮控

〔表紙〕
天保六乙未年八月

神楽講太々参宮控

当末日 林 一

(1) 天保六年四月(延引)

天保六乙未年四月延引二成ル

正月廿六日

一店々神楽講太々之儀彼是以差支等御座候而、久々中絶ニ相

成有之候処、昨年二月中江戸表三々度之大火ニて店々別条

無御座難有御礼旁参宮之儀今日月並御寄会ニ同有之候処尤

ニ被思召御聞濟御座候事

同廿七日

一此度当店世話番参宮、十次郎江被仰付候事

二月

一此度本店市川忠三郎殿、参宮被致候由、十次郎本店江参何

角示合候事

同晦日

一大坂本店江京本店より今夕通達有之候

二月晦日

一大坂兩替店江京兩替店より今夕支配人中江支配人より及通

達候事

同

一糸・間江者序有之入来之節申達候事

三月九日

一此度参宮已前ニ神楽講相務示合可申ニ付、明後十一日当番

於本店相務被申候段、廻文来ル

同十九日夕

一此度当番兩替店より落合氏并松坂店江来月十六日御執行之

儀及通達候処、差支等無之趣、落合氏返書、四月朔日到着、

松坂店返書者三月晦日到着之事

四月二日

一今日元方御寄合之節、先月廿四日未申刻、紀州様江戸赤坂

御上屋敷御広敷御長局御口より出火、御殿向不残、森御長

屋百軒御奥向御土蔵等御焼失、酉ノ上刻火鎮り候段、江戸

兩店書状を以仕立、五日限到着ニ付、延引可致旨被仰付候

事、尤当九月ニも可被仰付哉之御沙汰ニ候事

同

一右之趣、大坂店江及通達候事、尤糸・間江も手紙ニ而申遣

候事

同三日

一落合氏江我差支出来延引可仕候段、今夕書状松坂店へ礼遣

ス

四月三日
一右之趣、松坂店江も通達および候事
右之通にて当四月参宮延引相成、残念ニ候事

(2) 天保六年八月献立

改初ル

到着 菓子

吸物 みそ

小たい
みやうか

取肴

紅蒲鉾

生かい

うなき

うと

初竹

新平しめ

白豆

一塩
碓かれ

碓筋鯉

ミる御

小鉢ふすみそ

とふ

ゆりね

汐に

本膳

鱈魚大こん

けん栗

汁糸ゆズ
青ミ

白みそ

坪くしら
小も麩
めし

岩茸

平蒲鉾

椎茸

三ツ葉

二ノ椀

菓子碗しきみそ
こま

角□上

すまし

汁せいご

猪口 葉にんしん
こまあへ

汐焼

煮物 小たい

香之物 奈良漬瓜

後

すまし

吸物 洗きす

猪口 此残

汁

うどん 掛汁

胡升

中河原 三ツ 組盃

吸物

す漬

鉢 生かい 生か

煮物 ふかご 白みそ 汁とうふ 青ミ 才

めし

平 竹輪かま鉢

椎茸 麩

香之物

くき

↙

九日朝

納豆 茶漬めし

奈良漬瓜

菓子たんこ餅

九日朝

鱈魚 卵

菊らけ

青ミ さくろ

平割こんふ

たい ゆ

煮 鰹煮 生かい

猪口 くき

三ツ 組盃

御神楽中入

小ほん をうじん

小豆飯 汐蒸 浅漬

一重 さごし
こうやとうふ

れんこん
椎茸
奈良漬瓜

小皿 握めし
一重 赤白

三盃す
鰹作り身
うと
菊らけ

酒 宇二堅太郎太夫様
本膳

菜種たい
鱈さより
紅かんてん
大根白髪
のり
けんつくはね
蛤むぎ身
小かひな
松露

坪

平海老
かう竹
結ゆば

十二日

鱈横輪
粒椎茸
白髪大根
汁 小かむな

わさひ
かんきんかん
めし

角はんへい
平松茸
三ツ葉

茶碗いりこ
長いも

煮物さわら切身

厚やき
硯ふた竹輪蒲鉾
さわら塩蒸
れんこん
長いも青のり

鉢 付焼
たい

同 作り身
かつほ

吸物 すまし
たい はつ竹

小鉢 あへ物
松茸

味噌漬 式尾到来
小泉・西川・井田

落合より

大蒲鉾 式枚

酒三升到来

猪口麩小身 汁初竹
卸 な

めし 飛龍頭
平松茸
三ツ葉

椎茸
取肴高野とうふ
れんこん

煮物さつまいも
油揚
青のり

(3) 行程

十日、昼時着、曇天折々小雨、堀上

姫路屋善四郎

十一日、宿、天気、七ツ時過着

小俣 小林屋十兵衛

十二日、天気、昼半時着

松坂店

十三日、天気暖気 暮時着

垣外、大和屋孫左衛門

十四日、曇天、折々小雨、昼時より雨

八ツ半時より晴ル

名張、大竹屋助三郎

十五日、小雨、四ツ時頃より晴ル

初瀬へ参詣

昼時着

多武峯、衣屋平兵衛

十三日、四ツ時、松坂店出立

六軒にて、市川奥越分ル

右ハ伊賀越より南都へ罷越、かさぎより川船にて淀より大

坂、摂州明石へ罷越帰京積

曇折々小雨、四ツ時より追々晴ル

十五日 萩原宿、四ツ時半に着

春田氏親類宇田へ罷越、相済次第南都親元へ罷越、帰坂之

積也

十六日、天気、晴気

金貳両 太七渡

多武峯、朝六ツ半時出立、本社へ参詣、夫より吉野山人見

千本桜、藏王権現へ参詣、吉水院へ参ル

今夕暮時過あだ泊り、堀屋源七宿ス

十七日、天気、七ツ半時着

吉野山、大黒屋伊兵衛泊ル

十八日、曇、八ツ半時頃より雨

高野山、がらん所へ参詣、夫より奥院、弘法大師様へ参詣

ス、御大名様方御墓所有、暮時前紀伊見峠宿、民屋市兵衛

泊ル

十九日、朝曇、六ツ半時頃より晴ル

明六ツ時立、堺妙国寺袖川見物、住吉大明神へ参詣、浪花

屋ノ内ニ休、松見物、大坂店へ暮六ツ時過着、御酒被下候

すまし

吸物ハモ作ハモ

ゆ

かま鉾

取看小串

たひしき

鉢肴たい

同 作り身たい

同 あら

同 大こん

同 したく

廿日、晴天

朝五ツ半時、田中参ル

四ツ半時頃より茶船にて天保山へ参り、網船付

煮物小たい 汁な

すハモ

茶碗蒸たい

うなき

□□あへ

取肴 厚やき

蒲鉾

紅はしかミ

廿一日、曇折々晴ル、雨

西御堂御霊、薩摩稲荷参詣、人形芝居、役太夫・網太夫

廿二日、快晴

銀式匁 やうかん一棹代

御茶屋へ

金式朱

代八百四十八文

内

○八百十式文

(百六十七)
舟カシ文替

まゆはけ五つ

金式朱

代

壹

○三匁

馬頭七介へ遣ス

残り五百廿五文

〆〇五百六十匁文

太七へ渡ス

○四匁三分

井田氏へ土産、たばこ入ニツ代、高橋渡

万金丹

一金壹歩

此錢壹貫七百四十八文

同

一金式朱

式百八十粒

此錢八百七十式文

〆

○銀四匁三分

親方へ

○銀式匁

太助へ

(4) 金銀出入

壹貫式百文

鼠屋きせる六封代

代十匁匁式分

四百七十文

田葉粉式匁代、不用

代四匁三分六厘

(十五匁五分六)
〆シサ、サ入カ厘

賄方当座二分

(5) 参宮関係支出

大中野なし

両宮

窪田 小原 山中

山崎

岸田 森脇 小野

十三銅ツ、

○金貳朱	十二日	一金三歩入	○金貳朱	○金壹歩貳朱	一金壹兩貳歩	代十〆五百廿四文	内	○十〆文	○貳百文
と石屋渡	太七渡	落合酒〆	備印	同中井かし	兩替			目録三口	定分兩人へ

舟(百八十六文)
 内、(四十六文)
(四十五文)
(四十六文)
(四十五文)
(四十六文)
(四十五文)
 内宮
 玉串
 外宮
 落合

○金貳朱	○七百元	○四匁	一四百文	一貳百文	一貳百七十六文	○貳百文	○貳百文	○百文	差引 出合なし
備印酒〆	外廻り	宮号さいせん	落合玉串	御初穂	十三組役々へ渡ス、 尤九	右同	十三組銘々	松坂御□□□	落合より玉串迄荷物
太七へ渡ス	八月八日	兩替	代巻〆七百五十貳文	備印酒〆	吉ノ山へ				

(6) 玉串手代
 玉串手代

〇イ両

〇百廿文

中瀬源次様
前川永八様

ノ

〇式百文

玉串渡、済口

一百五十文

太七より受取

一式百文

内より

内、廿四文

大和屋式ツ

十式文

筒口三ツ

宗幹様

御奥 御琴様

則右衛門様

同御杵さま

ノ

宗十郎様

同御植様

謙之助様

ノ

寿香様

ノ

名代

小泉吉兵衛殿

通勤支配

西川十兵衛殿

支配人 井田市郎兵衛殿

同格 中村平助殿

2 控（宿入、通勤支配役就任の次第）

〔表紙〕
天保八年丁酉三月

控

天保八年酉三月

一三月十四日夕於六疊敷元ノ格中野勝助様、元名窪田仁兵衛様御立会、明後十六日月並御寄合之上、貴様此度宿入通勤支配役可被仰付段、御内意被下候事、役中御内意之御礼申候也

一三月十六日 月並御寄合

三郎助様 博一郎様

八郎右衛門様 八助様

次郎右衛門様

御定刻限御列座之上、十次郎被召出、此度通勤支配役望性銀、合力申渡ス御書付并御目録中野勝助様江御渡御証聞セ御渡有之、夫より主中様方、兩側御列座三付、兩度御礼申上東側本店筋之方江兩度西側両店筋彦度御礼申元席江並、尤此度左之通

此度加判名代格

窪田仁兵衛様

此元方名代役

大坂
角田善太郎様

此度勘定名代役

同
西村定次郎様

但、大坂にて申渡候様、被仰遣候事

此度組頭名代役

伊奈直三郎様

但、右同断

願之通御暇雇雇勤

糸店支配役
中川太兵衛様
間之町店

此度通勤支配役

松本友七様
同支配格

願之通御暇

川辺市助様

願之通御暇

同後見役
平井清兵衛様

右之外本店

此度加判名代格

白瀬新右衛門様
松山喜十郎様

此度名代役

大坂本店
田中寛右衛門様

右之通被仰渡候事

一御礼状店向書簡留帳ニ有之通、下拙松本氏連名にて当店ニ
て認ル

一窪田御氏、角田御氏、連名専通ツ、

一中川氏、川辺氏、連名にて専通ツ、糸店にて認ル

一江戸御勤番元之助様江

一松坂主中様

宗幹様、則右衛門様

宗十郎様、篤之助様

江

宗養様別状ニ認ル

一江戸本店、向店、芝口店、支配迄連名

一江戸両替店支配格迄連名、但、支格なし

一大坂店ハ本店両替店支配格迄連名也

一松坂店支配格迄連名

元方より廻文到来之上

一糸・間并家督休株共廻文之事

一江戸・大坂・松坂店江本状より役替通達之事、但、本店筋

ハ不認

一昨夕勘定場にて組頭格已上列座、若キ衆子供之寄会有之

三月十七日天気

一御宅々店々并当役中宅当店家督休株共退役中へ御礼廻ル

糸店昼支度工面克ニ付、相頼候事

窪田御氏角田御氏も御越にて左之通

平 たい
椎茸 汁
みツは 百合根
めし 青ミ

煮物 一しほ
甘たい

酒

取肴 卷玉子
蒲鉾 紅はしかミ

吸物 赤みそ
あゆ

鉢肴 しほやき
川鱒

大平 いらりこ
赤麩 長いも

鉢 作り身
たい

わさび醬油

したしもの

右之通出ル、八ツ時退出、残り夫々相廻ル

三月十八日

一出水三郎助高益様(当時元方様也)より役替三付、御掛物
一幅蓬萊山(伊川院法印画)被下、且又御酒可被下処、時
節柄三付、御料理代銀三兩被下候三付、御酒(銀三匁半
紙式折)、火男老入、右之連被下候而御礼参上ス

一宿元江当役衆役替之衆入来有之挨拶申来ル
一店元服已上之御銘々御出被下候御礼申達候

同日

一今夕間之町店年褒美被仰渡候、御寄会三郎助様、八郎右衛
門様、次郎右衛門様、御出席当店通勤支配已上出席、無滞
相済

鯉子付 玉子せん

向白髪うと

わさび 汁粒椎茸
順才

猪口いり酒

めし

平皿椎茸 鱒

皮牛蒡

煮物うなき

鯛塩蒸

取肴いらりこ

長いも

したし物

右二而三盃限、下拙初而出席

一三月廿二日、伊佐田吉兵衛様并中村吉右衛門様、八ツ時頃
入来、酒飯出ス、何角相談いたし候事、鈴木半兵衛様御出
金屋五郎三郎、作仙院、亀ノ手、火籠箱入到来、代凡金式
步式朱位

一三月廿五日、隠居江懸道明（九百五十七）候事、同日井上三右衛門様よ
り鯛巻枚、赤貝五ツ、代ウ舟サシ文位、杉原三帖、扇子一
箱到来ス

一三月廿一日、林四郎兵衛様より鯉節五本、扇子一箱到来
一三月廿六日、手伝平兵衛外老人、隠居構打、左官三人、本
家之方、二階奥上ぬり、薄鼠、其外一通り

一三月廿五日、本家より隠居江之懸御道明ケ候ニ付、廿四日、
廿五日、廿六日大工安八、手伝平兵衛来ル

一三月廿七日、大丸ニテ帯相調候、代式十七匁八分、左官手
伝来ル

一三月廿八日、廿九日、左官手伝疊屋来ル、左官ハ廿九日限
也

一同晦日、手伝兩人疊屋来ル

一四月朔日、手伝兩人、疊屋兩人来ル、玉友江相頼置候脇差
柄巻并鮫木洗出来ル、今日山中伝兵衛殿を以、来ル十一日、

日柄宜ニ付、引取申度旨并左之通

大仏瓦町

瓦師三右衛門

婚礼里方親類 娘みか

当西廿一才

美廿三才

右書付とも山中氏江相願申候、小原御氏より段々尋
呉候処引取、十一日之儀ハ御承知被下、妻之儀者当御調
可被下旨

四月二日

一今朝宿町年寄俵屋宗兵衛様へ、十次郎参り、此度宿入来ル
十一日より引取、内婚礼等之儀届置、尚又役頭武藤文記様
綿屋久兵衛様も届置、尤已来御町役無勤料候儀も相願候事、
井上三右衛門殿入来、五宗之儀御咄在之、慶事ニ付御談じ
有之、大工安八、今日より来ル

四月四日

一 来ル十一日晚より宿元江引取之儀、御承知在之候段、山中
御氏より達被下候

同日

一 妻嫁入之儀、御伺之上、御聞濟有之段、山中氏より御達有
之、別宅中江挨拶ス

四月六日
一昼後仲人吉兵衛様入来、何角相咄、酒飯出し、七ツ時被帰
申候

同七日
一母人様、中野・窪田・小原氏宅へ宿入挨拶被罷越候

同九日
一今晚店詰切衆中・役人衆四人、若キ衆・子供衆迄十五人、
台処五人、廿四人引振舞左之通

白みそ
吸物鮎め 代り有

鮭小串
取肴巻いから 式台

岩茸

煮付

鉢肴鯛 式組

ふき

すまし

吸物ぐじ

小皿鯛作り身

うと わさび醬油

赤みそ

吸もの鯛あら

したしもの

右之通赤尾氏、嶋久江申付、代金マ舟疋也、^(三百)尤精進物・酒

等店より、尤近々名替も可致積りニ付、右を込候事先格之
段、金セ舟疋

金サシ疋 ^(五十)

男頭七介殿
世話被成候ニ付遣ス

尤先格銀 ^(一兩二)

候得共、出入方も無之
何角差含遣ス

銀マシツ、 ^(三十)

出入方太兵衛殿
同 卯兵衛殿

銀セ、ツ、 ^(二匁)

下男四人

同
一店子供衆七人江毎々世話ニ相成候ニ付、^(六匁)カ入替扇子三本

ツ、経ル

同十日

一い七屋徳兵衛殿より宿入為祝、鯛壹枚、いせ海老式、到来
ス、代シ、^(十匁)

同十一日

一丹波おミと殿上京ス、為土産生が漬一面到来

同

一今日日柄宜ニ付、母人様隠居江移、初かゆたき相祝申候

同

一今晚より宿元江引取ニ付、夕飯左之通

鱈大こん
かつほ
汁ふぎ
かつほ

めし

平皿椎茸

葉付□め

煮物小たい

三組盃

酒

たい小串

取肴はも

ゑび

麩

紅はしかミ

ゞ

吸もの白子すまし

順才

右之通にて祝義左二

端物料

金マ舟疋

金サシ疋ツ、

久兵衛

ゞ ぶじ

御母様江

銀イ兩ツ、 さき

ゆき

治郎吉

ゞ

右ハ母人・隠居祝と一緒にして如此遣ス、母人様より宿入
為祝扇子料金マ舟疋被下候

同日

一内婚礼之御杓けいこ有之

同

一嶋久より鯛壹枚、しほ小鱈式到来ス、代金マ朱、則同所へ

預ル

同

一今晚引取ニ付、別宅中、役人中、若キ衆挨拶、荷物引取、

店下男四人運び被呉候、暮時過帰ル

四月十二日

一今朝五条江参り、何角相談いたし、御酒出、朝四ツ時過帰
ル、お里様少々御不快、今日山中御氏江来ル十八日内婚礼
儀手輕ニ相整申度段御座候、則御承知被下候段中野御氏被
仰山中御氏被仰下候事、十次郎改名与七相改度旨書付山中
御氏へ差出、小原御氏より引移り御祝として鯛壹枚、海老
式、代シ、被下候、いせ徳へ預ける、大坂田中氏へ書状出
ス

同十三日
一小泉七兵衛様、伊佐屋吉兵衛様御出被下候

四月十四日

一いせ屋徳兵衛江返礼金百疋遣ス、山城屋久兵衛より塩小鯛五枚到来

四月十五日

一大仏餅、喜助方にてのし餅四升誂ル、廿式人前ニ切ル、節末

白あん十人前式ツツ、数二十 三分五ノ替
内一人用意

黒あん十二人前五ツツ、数六十 一分五ノ替
内式人用意

御菓子壹斤

紅龜押物 青松葉有米

最中月 洗水数十

右何れも十八日入用之分

四月十五日

一五条并万寿寺へ参ル

同
一次介方火入ノ池田炭数廿申遣ス

同
一煎茶有合到来

同

一明晩荷物来り候節、酒不出、井上三て酒給させ被申、仍而酒料金セ舟疋五条へ持参、井上氏へ御遣し被下候節、相頼置申候

同

一いせ徳来り献立書引取

同
一座敷そうじ土蔵道具引出ス

同
一八ツ時過、鯛煮付にて酒給候事、夫より夜半五十川氏へ参り、十九日飲ニ参り被呉候節、着流し之儀願置、店宜鯛せ

んば煮、内へ被呉候、暮時前出勤、酒版出席ス

同十六日

一大谷御墓江参詣ス五時過五条佐助殿人数書付持参也、餅つき米壹斗十八日昼迄持参有之候様、近源へ申遣ス、則承知也、良末へ干菓子并まんちう等注文書遣ス

四月十六日

一小原御氏より宿入祝物之答札

鯉節 五本

送ル

額縁□□、風呂敷一

代力(六匁五分)サ入

酒ノ半紙二折

同日

一嶋久江答礼金舟疋送ル

同日

一包金銀御出入番へ相頼候事

同

一白木三宝并塗三宝御店ノ借受申候事

同

一大奉書二枚 河長

同

一中長黒紅水引式匁、代廿四文

同

一白竹灰吹五本、十八文替

室丁綾小路上ル竹藤指物屋直し賃

壹ツ八文替に錢四十文

同

一大のし壹把白器三十膳

いせ徳より来ル

同
一火入炭池田五十式

代八十四文

3 江戸出立到来物其外登り日記土産物控

(表紙)
天保十二辛丑七月

江戸出立到来物其外

登り日記土産物控

(1) 到来物控

始

到来物控

一麻苧五把

一同 三把

一英一蝶画扇面式枚

一麻苧三把

一錦絵三十枚・打熨斗三折

奥野多助様

飯田利兵衛様

汐崎路四郎様

宮下五郎兵衛様

林留右衛門様

宇佐美又兵衛様

原田政七様

一切田葉粉入壺・切筒一箱

西口彦四郎様

次郎右衛門様

御店より

御餞別

右同断

御料理代

右同断

御餞別

宮下五郎兵衛様

福井与兵衛様

脇田久三郎様

齋藤専藏様

慶徳善左衛門様

中嶋弥七様

鎌田■様

勝田様 御内

池永弥兵衛様

竹すたれ大小五枚

一紙文箱六枚

折熨斗

細工物やうじ差品々

一練やうかん一箱

櫻井様 御内

代五匁

植村嘉助様

植村新右衛門様

小林藤兵衛様

齋藤氏

一練やうかん一箱

代三匁

酒吞猪口一箱

藤木氏

一かつば田葉粉入一

江戶出入与助殿

一鯉節式本 袋入

猪口 卸大こん

汁常

花かつほ

めし

平 玉子

すいき

炙物 小たい

酒

(2) 帰京日記

雨天 戊

一七月廿二日、江戸曉七ツ時出立

右相濟暇乞受候所、今川橋迄支配人衆・組頭衆・若キ衆・

不残見送被參候、子供見セニテ御見送有之、板橋宿迄見送り組頭格潮崎啓次郎殿御出被下、供方新平參ル、酒夜出ス、暮時前鴻巢宿脇本陣瀬山庄左衛門方泊ル

雨天夜半強雨、九ツ時前止、追々晴

一七月廿三日、明ケ六ツ時前鴻巢出立、小山川渡舟、かんな川土橋、暮時過新町宿泊り、本陣小林泊

天氣折々曇、子

一七月廿四日、曉七ツ時出立、横川御関所七ツ時前罷懸ケ、手形差上無滞相懸ケ申候、七ツ時上州坂本宿中村屋仲右衛門方泊

丑、曇、五ツ時頃より晴ル、七ツ時白雨シ少雷鳴、無程止
一七月廿五日、明六ツ時出立、昼飯信州追分宿東屋、当路貫

目改駕籠改望月宿駒屋五一方暮時泊ル、はね石垣大小有之
寅、朝曇、五ツ時過雨
一七月廿六日、八ツ時前出立、和田宿ニテ中飯、和田峠打越、すわ宿脇本陣丸屋与四郎方七ツ時泊、入湯・すわ大明神江

參詣、今晚長久保宿ニテ夜明けル

卯快晴、夕方曇、二百廿日也

一七月廿七日、明ケ六ツ時前出立、本山中飯、神事ニテ芝居有之、見物多く參ル、洗馬宿貫目改、今日より木曾路ニテ尾州様御領分、鳥居峠より暮ル、御宿敷原古畑又左衛門方、暮時過泊ル

辰、雨天、八ツ時より曇晴

一七月廿八日、明ケ六ツ時前出立、寝さめ浦嶋ノ見物案内老入、五組ツ、そば煮物木曾棧橋、御たけ山鳥居山ノ上三見る、小野たき福嶋御関所四ツ時前通り、野尻宿ふか屋久左衛門方暮時過泊ル

巳、雨天終日降

一七月廿九日、曉八ツ時過出立、中飯馬籠ニテ三ツ山棧雨天
二付、□□す、なすひ川より大井宿升屋一方暮時前泊ル、今日木曾路終、美濃国馬籠ノ先より成ル

午、曇、追々晴ル

一八月朔日、明六ツ時前出立、十三峠ひわ峠打越、太田川を越、太田宿磯谷江暮時前泊ル、細久手宿問屋前ニテ半次殿下り出合

未、晴天

一八月二日、曉七半時頃出立、中飯加納宿、河渡川呂久川舟渡打越、赤坂宿伊沼作蔵方へ七ツ時頃泊ル

申、天氣八ツ時後曇、七ツ時小雨

一八月三日、曉八ツ時頃出立、すりはり峠打越、鳥居本坂本屋ニテ中飯致し、越川宿松市方ニテ七ツ時泊ル

酉、雨天

一八月四日、明ケ六ツ時出立、中飯守山宿、八ツ時過草津藤屋与左衛門方泊ル

戌、天気折々曇、小雨
一八月五日、六ツ時過出立、矢走船借切、乗舟、大津小舟入
より佐野屋休、問屋にて先触受取、昼時けあけ加賀屋へ着

御店御出迎組頭松野市郎様、西田新四郎様、井上仁助様、
御待請、大津辺井上三四郎様御出被下候、店出入利兵衛、
合八百屋喜助殿、嶋久被罷越、日野屋藤兵衛殿、山城屋何
兵衛殿罷出呉候、御店よりも御持参物在之、宿元よりも重
諸酒出ス、相済加賀屋茶代金一朱遣ス、尤吉郎殿たつた迄
罷越申候、夫より店へ着引続キ元方様御三軒へ道中之儘罷
罷上ル、尤元方役所へも罷越暮時前、宿元へ目出度着いた
し候、井上三左衛門様、并伊佐田吉兵衛様、井上お幸儀、
井上三四郎様、御待請被下酒飯出し相伴盃いたし候事

(3) 帰京土産物

帰京土産物

一かすてら一箱ツ、
代金舟疋ツ、
油小路様
南様

一右同一箱ツ、
代金マ朱ツ、
六角様
新町様
竹屋町様
出水様

右何れも塗台ニ乗長のし包、御台処役宛手紙添

麻苧一把
一江戸熨斗包紙百枚ツ、
細工物有之
中野勝助様
窪田仁兵衛様

きせる沓本
代三匁
同糸筒沓本
代三匁五分
ツ、
右御兩人
但別段饒別到来ニ付如此

麻苧一把
一きせる沓本
代三匁ツ、
細工もの
山中伝兵衛様

きせる沓本
一 代三匁
紙文入袋三十
代五分
岸田吉五郎様
中野良藏様
松埜市太郎様
高橋用次郎様
但西田氏八別ニ送ル

若キ衆

一 きせる沓本ツ、
代式匁五分

山崎正藏様
小原安之介様
小林米三郎様
櫻井吉次郎様
小原虎之助様
中村弁之助様
堀江六三郎様
安田幸太郎様

一 江戸染手拭沓筋ツ、
平骨扇子沓本
但元服無間ニ付如此

山中松次郎様
奥村種三郎様

一 江戸染手拭沓筋ツ、
代沓匁五分ツ、

子供
佐原房次郎様
伊東鉄之助様
上原鉄三郎様
窪田磯五郎様
川嶋源三郎様

一 麻苧沓把
一 きせる沓本
代三匁

支配退役雇勤
山崎甚五郎様

一 江戸染手拭式筋
平骨扇子沓本

男頭市助

一 江戸染手拭沓筋ツ、

下男三人

一 右同断

出入多兵衛
利兵衛
卯兵衛

一 江戸染手拭沓筋
平骨扇子沓本

髪結太助

一 麻苧一把
一 浅草海苔十枚
千代紙五枚
きせる糸筒沓本
紙文入袋式十

西田新四郎様

一 きせる沓本
一 代七匁五分
一 切田葉粉入沓
代五匁

右同人
但留主中世話ニ相成ニ付
別段送ル

一 麻苧
一 江戸熨斗包紙三十枚
紙紋入袋三十

丸山芳太郎様
小林彦十郎様

一 麻苧式把
一 糸筒沓本
一 切田葉粉沓
一 江戸熨斗包紙
江戸絵三枚

乾助次郎様

麻苧一把
一切田葉粉壹
いねかき巻紙一帖

鱗形屋庄介様

麻苧弍把
いねかき巻紙五十枚ツ、
江戸絵三枚
柏屋清左衛門様
綿屋久兵衛様

麻苧一把

いねかき巻紙一帖
千代紙三枚

佐原伊右衛門様

麻苧一把

きせる糸筒壹本
江戸熨斗包紙廿枚

紙文入袋弍十

江戸絵千代紙八枚

池田屋清兵衛様

麻苧壹把

江戸熨斗包紙廿枚

窪田重次郎様

麻苧壹わ

江戸絵三枚

俵屋宗兵衛様

麻苧壹わ
切田葉粉入壹

井上勘三郎様

麻苧壹わ

金五十疋

用人喜六

麻苧壹わ
切田葉粉壹

児玉十介様

金五十疋

金五十拾疋

父喜八

麻苧弍把
きせる糸筒壹本

浅草海苔十枚

千代紙江戸絵五枚

紙文入袋三十

林善藏様

麻苧壹わ

紙文入袋廿枚

向イ
十文字屋太兵衛様

麻苧弍把

きせる糸筒壹本

江戸絵三枚

町内

近江屋喜兵衛様

麻苧壹わ

きせる糸筒壹本

江戸絵五枚

本町

安田長九郎様

麻苧弍把

いねかき巻紙五十枚

江戸絵六枚

井口屋半左衛門様

麻苧壹わ

紙文入袋三十枚

同

丸屋源右衛門様

練やうかん一箱

代五匁

一 麻苧沓わ

千代紙三枚

麻苧式把

一 千代紙五枚

紙文入袋五十

駒式ツ

麻苧沓わ

一 糸筒沓本

江戸絵

鈴木半兵衛様

糸屋茂右衛門様

近江屋藤兵衛様

小野官藏様

和田又兵衛様

井上三右衛門様

同御幸様

一 朱櫛沓枚

代金貳朱

麻苧半わ

一切田葉粉入沓

江戸本三冊

きせる沓本

代七匁五分

一 宿代

金百疋

同おちか様

宇野おいそ様

井上仁助様

深草

守木

甚兵衛様

一 唐更紗風呂敷一

切田葉粉入沓

一

一 きせる沓本

代式匁五分

一 黒半拾沓ツツ、

一 盃沓枚

江戸絵

大仏おひて殿

同 吉藏殿

同 下女きさ

下女とよ

小栗次

清左衛門様

木面明石縮沓反

一 麻苧沓わ

江戸絵并熨斗紙

一 紙布縮沓反ツ、

一 黒半裕沓

一 江戸手拭沓ツ、

麻苧沓わ

巻紙一帖

一 江戸熨斗包三十枚

紙文入袋三十

糸筒沓本

麻苧一わ

一 田葉粉入同筒

細工もの沓

一 茶盃沓枚

美之紙一帖

雁皮紙三帖

一切田葉粉入沓

紙文入袋三十

伊佐田吉兵衛様

おさと殿
おうの殿

五条下女ゆす

五条小者

正次郎

大仏小者

虎吉

栄吉

田中覚右衛門様

円龍寺様

養承寺様

小野おすへ殿

麻苧沓わ

一切田葉粉入沓

江戸熨斗包

千代紙三枚

一 麻苧一わ

田葉粉入沓

一 右同断

一 麻苧沓わ

江戸絵六枚

麻苧沓わ

田葉粉入沓

きせる沓本

一 浅草海苔十枚

千代紙江戸絵

細工もの沓

麻苧沓わ

一 田葉粉入沓

筒共箱入

一 麻苧沓わ

田葉入沓

麻苧沓わ半

一 酒吞猪口一箱

きせる沓本

五十川清太郎様

下女さき宿

指物屋平兵衛様

おとみ殿

中村吉右衛門様

八木佐兵衛様

白桜扇甚兵衛様

嶋屋久兵衛様

麻苧杓わ
一切田葉粉入杓
千代紙三枚

五十川吉郎兵衛様

一金杓兩杓歩

八百屋喜介殿、留主中夜分泊番
雇賃、凡一夜六分位ニ当ル

麻苧杓わ

大文字屋利兵衛殿

一金五十疋

右同人心付

一金五十疋

松屋儀兵衛殿土産

一折熨斗一包
酒杓奴

一金百疋

日野屋藤兵衛殿土産
右同人方、おみね殿
おみさ殿

一麻苧杓わ

高宮屋嘉兵衛様
松屋儀介様

一金五十疋

およい殿

一まゆはけ式本

おふじ殿

一金百五十疋

山城屋仁兵衛殿

麻苧式把

川しま利右衛門様

一金杓朱

同人妻おひさ殿

一江戸絵五枚
紙文入袋二十
細工もの杓

鍵屋伝兵衛殿

一金杓朱

出入卯兵衛殿泊番心付
いせ徳久七殿

一麻苧半わ

宰領与八給金

切紙

┌

田葉粉入筒共

右同人祝義

セシサ兩

(二十五) (十五) (三) (二)
シサ兩マ分セ七朱

一金三歩

右同人別段、但、道中酒呑不申、
且八荷合羽損じ候ニ付、如此
内々ニ致遣ス

(4) 金銀出入

└

一金杓歩

右同人祝義

七月廿一日

高野氏渡

一金杓歩

右同人別段、但、道中酒呑不申、
且八荷合羽損じ候ニ付、如此
内々ニ致遣ス

一金杓歩

取替物サ、分
(五疋)

一金杓朱

出入利兵衛殿、出立婦京世話ニ
相成候心付

内、式匁五分戻り登ル

持出し駕籠賃

同
一金三兩也

入式貫九百五十文

同廿二日
一金五兩

入金式拾兩

兩替

右代り

与八渡

路用

4 江戸勤番下り諸用扣

〔表紙〕
弘化三年午二月

江戸勤番下り諸用扣

但、類焼二付

老番

〔1〕江戸下り行程

〔貼紙〕
二月廿三日

石部

廿四日
関

廿五日

桑名

廿六日
宮

廿七日

御油

廿八日
浜松

廿九日

嶋田

三月朔日
沖津

二日

三嶋

三日
小田原

四日

戸塚

五日
江戸着

〔2〕江戸各店舗の重役一覽

江戸御勤番

御付

三郎助様

岡田市蔵様

元之助様

御付
和田佐兵衛様

江戸両替店

名代役

齋藤専蔵様

後見役

内室おとよ殿
宇佐美又兵衛様
おのふ殿

通勤支配格店詰切

御名代

飯田利兵衛様

支配役

原嘉平次様

支配格組頭役

飯嶋勝六様

組頭本役同格

御名代

田波新三郎様

組頭格家方

小林茂兵衛様

組頭格嶋方出入番兼

黒田政次郎様

雇勤帳合方

櫻井彦次郎様

家方平

原田政七様
加藤金三郎様

賄方二成ル

加藤東七様

向井七五郎様

増田安五郎様

池口茂七様

□司善蔵様

松林齋三郎様

永田甚七様

子供頭

津田幾五郎様

高津伝吉様

子供
河野為五郎殿

中村政次郎殿

安達善五郎殿

脇田政之介殿

沢木勝八郎殿

櫻井乙五郎殿

河野豊次郎殿

進物方

午四月出勤

小野新介殿

芝口店御習学

挑次郎様

江戸本店

当閏五月七日夜亥刻死去

道寿屋敷、元大工町卜云

藤村金之助様

本町貳町目

勘定名代 沢木新四郎様

白銀丁老町目北側

福井庄之助様

名代

後見紀印方

同所南側稻荷筋向

中村源四郎様

同 白銀町貳丁目南側
木原伝五郎様

坂本町

同格嶋方 池田弥一郎様
支配人 池田清兵衛様

西山徳四郎様
坂田岩次郎様

鈴木金七様

向店

元方名代 吳服町樽新道
村田恒五郎様

名代 日本橋貳町目中通り
松田徳右衛門様

通勤支配店詰切

支配人 刀根喜三郎様
堀内甚四郎様

夏池嘉七様

芝口店

名代 芝口貳丁目仙台様御門前
小林惣兵衛様

後見 銀座町三町目裏通り角
岡田源三郎様

支配人

河田市次郎様
池田文三郎様

(3) 御伝言之覺

御伝言之覺

一宗六様・八郎右衛門様より

三郎助様江御伝言之事

一八郎右衛門様より中塚氏出立前御談之儀

一則兵衛様より三郎助様江御伝言之事

一御同所様より宇佐美氏へ毎々沢庵漬之御礼も有

一字佐美氏ニ別宅役人中へ沢庵漬到来之礼

一江戸十日より御停止五日之間、十三日本店開キ之処、十

六日頃店開キニ成哉

一竹屋町様より三郎助様・桃次郎様へ金封貳ツ

一出水様より岡田氏并桃次郎様へ紙包貳ツ

一元方より被仰渡書入紙包壹ツ

一川嶋専次郎殿へ書状届之事

一真盛耆徳利 小林茂兵衛様

凡貳合
(五百) 代サ舟文

(4) 餞別到来

餞別到来

夕飯料

一金壹両

御店より

扇子料

一銀子壹封

此銀十匁

窪田仁兵衛様
山中伝兵衛様
中の勝介様

一長崎多葉粉三ツ

扇子料

一金五十疋

山崎甚五郎様
竹屋町様

一おほろ式箱

代四匁位

窪田仁兵衛様
別段

一扇子十本

六匁替

窪田十郎兵衛様

一扇子十本

小菊十束

釜座文助様

一干菓子一箱

□□三枚

川しま利介様

一御箸御玄猪

年頭菱餅

赤尾喜右衛門様

鯛壹枚
井上三右衛門様

一かま鉾式枚
伊佐田吉兵衛様より

代金貳朱
中村吉右衛門様

一柴漬一箱
西村彦右衛門様

一水砂糖一皿
越後屋市兵衛様

一長崎多葉粉三ツ
中の勝助様内より

一てんふ一皿
理兵衛殿

一同一箱
鍵屋伝兵衛殿

一茶籠袋一
菊屋太介殿

鯛壹枚
林善藏様

一水生貝式ツ
代十匁位

箱詰肴五種
八木佐兵衛様

一若狭鯛、粒椎茸
桜麩

一水生貝、竹輪、玉子
一梅ヶ香一箱
寺町甚五郎様

一黒香餅

一水砂糖半斤斗
佐原伊右衛門様

一仕入うに蒲鉾式枚
嶋本久兵衛様

一和中飲甘服
山本静水様

代凡五匁

(5) 在府中見舞

在府中見舞

一肴三種

代五百文位

植村新右衛門様より

一手製鮓一重

中嶋弥七様より

一大森しそう漬二皿

才領弥七より

一かすていら半釜一箱 飯田利兵衛様より

一益寿糖一箱

井上仁介様

代式匆来

岡本より

一うなき切手一枚

升屋専蔵様より

代金七朱

閏五月廿三日

一梅かへ田夫

右御同人様より

一甘露梅

一うちわ式本

近藤様より

一同式本

沢潟屋より

一三盆白

一文字屋嘉兵衛より

一道明寺

一てんぷら一重

中嶋氏より

一なすひ木瓜漬

齋藤氏より

小たい壹
一甘たい一
せいご三灸

宇佐美氏より

(6) 用向覚

用向願

一中田サシ両事

一四十ヶ所、巳秋季功納之事

一万与年賦筋

一和泉様古御調達筋願事

一右宮下氏元方願事

一宮下氏其儘ニも致相成事

一御代官様年(八)チ歩下ケ願事

(7) 日記

二月廿三日 天氣雨、折々雪、雪春寒強

一石部へ七ツ時過着、扇屋泊ル

今日平野白幸ニ候得共、小舟入乗舟、西風ニて早く□□へ

着、昼支度草津藤屋ニて

天氣折々曇

一同廿四日、今朝七ツ半時石部立、昼支度松尾ニて、関泊り

之処、龜山大和屋泊、七ツ半時着

但、関ニて嘉八ニあい候事

晴天

一同廿五日、今朝七ツ時龜山立ニて、留田昼支度、桑名福嶋屋八ツ時着、致支度直様舟かり切代三貫八百文、福島より弁当茶火碓入ル、宮へ夜四つ時着、小出江泊ル

天気昼後曇

但、七ツ時立之積之處、小出翌日也

一同廿六日、明ヶ六ツ時過宮立ニて、昼時御油宿いてう屋泊ル、昼支度、池鯉鮒先ニて乗下紐切レ候ニ付、藤川宿ニて一籠買、貸し候

雨天

一同廿七日、暁七ツ時御油立ニて、二川宿才領弥吉在所ニ付、宿先才領長吉宅ニて酒給べ相待居ル、荒井中山屋へ九ツ時着、うなぎニて中飯ス、舟拵さ七直様御関所通ル、雨天ニ付、門口迄下駄ニて参り、土足ニ相成、才領弥吉番所ニて御為替三井組名代林与七江戸表へ罷下り候ニ付、上下式人御通し被成下候哉申、与七下ニて居ル、直様乗舟、八ツ時過舞坂宿荒荷屋へ参ル、休足、直様人足馬出来出ル、七ツ時過浜松宿川口屋次郎兵衛差支ニ付、着宿ニて向イ大伊勢屋ニて泊

〔欄外〕
「吉田川橋普請ニ付、渡舟」

一川口屋次郎兵衛より差身酒出来、挨拶、式朱遣ス

二月廿八日快晴

一今暁正七ツ時浜松立、天龍川渡舟、二瀬ニ箆有之、原川と申所ニて昼支度ス、七ツ時過大井川無滞越、目出度存候、七ツ半時過嶋田宿へ着之處、丸屋差支、隣中屋と申所ニて泊ル、大井川越壱人八十八文也
日坂上下、箱根ニ続キ候山也

同廿九日夜中より雨、八つ時頃より風吹

一今暁七ツ時前、島田宿立、瀬戸川越、誠あさき川越なし、丸子宿下り、出口池口屋ニて昼支度、八ツ時頃阿部川越、荷渡府中貫目役、岡部より丸子ノ間ニ山上下有、七ツ時過興津宿清水屋泊ル

三月朔日辰曇、四つ時過より雨、八ツ半時頃止、追々晴ル

一興津川昨夕より今朝五ツ時迄川支、日昇清水屋立、興津川荷渡サツタ相越、由井蒲原之間又峠有、夫より富士川舟渡無滞相越申候、水多く吉原先ニて昼支度ス、暮時沼津虎屋差支ニ付、塩田屋直七と申方ニて泊ル

三月二日巳朝曇、追々晴ル、風立寒し

一今朝七ツ時過沼津立、六ツ時三嶋着、夫より箱根山打越峠松屋又左衛門方ニて中飯、酒差出ス、金サシ^(五十)足遣ス、夫より御関所前駕籠出通り、尤駕籠乗上ヶ候事、箱根人馬不継、三嶋より小田原迄通也、湯本万屋ニて細工物調三ツニて代

七百年也、七ツ時過小田原久保田江泊ル

三月三日午寒く、天氣

一今朝七時半小田原立、酒匂川相越舟渡、平塚先馬入川橋渡、

中飯、平塚先七ツ時前戸塚中村屋甚四郎泊ル

三月四日未天氣寒く

一今朝七時半時戸塚立、昼支度河崎、又品川武藏屋にて支度、

酒給候事、八ツ時過無難江戸着ス、尤品川宿にて先触受取、

江戸支配人衆へ相渡ス、芝金杉辺迄黒田政次郎殿出迎被吳

候、到着

大こん 汁 落し玉子
鱈 花かつほ わかめ

めし

鴨

平椎茸

茗荷茸

煮物 ほうほう

酒

天氣

三月五日、昼後店々別宅中、福井惣兵衛殿、河野又左衛門

殿、中店ニ中塚氏被居候ニ付、飯田利兵衛殿御案内差越ス、

店々別宅支配人衆五日六日ニ挨拶被罷越候

同六日、雨天

同七日、昼後植村・中嶋并よし町林氏へ参ル、出入与介案

内ス

三月八日晴天

一九ツ時後、田所町植村新六殿夫より下谷竹町池永弥兵衛殿

へ参ル、又夫より上野并浅草観音江参詣、暮時帰店、与介

案内、上野彼岸様通候、宜様見へ申候

三月九日天氣甲子

一無抛金元方京都目録算当ス、近藤良三殿奥へ入来、懸御目

申候

三月十日曇雨九ツ時前より

一今晚七ツ時頃芝口店近辺出火ニ付、明六時火鎮申候、三郎

助様御越被遊、先以芝口店無別状難有御義奉存候、当役与

七罷出ル

一今九ツ時当店ニ而元方御寄会、三郎助様・桃次郎様・藤

村・中塚・村田出席、役替

此通勤支配格店詰切

飯田利兵衛殿

支配本役

原嘉平二殿

支配格

勝蔵殿事

組頭本役

飯嶋勝六殿
田波新三郎殿

右之通結構被仰渡難有奉存候、右相濟抛金目録其外元方雜

用銀受取手形も差出ス

平たい
薄汐
汁貝はしら
若め

香の物
中皿鯛差身
うとめ

酒
右済引取被申候事

一 今昼後本店江御二方様并与七、又兵衛、利兵衛罷越、此度被仰渡書宇佐美氏読夫々調印、且類焼御合力等被仰渡候
一 今晚当店内役替御勤番様へ御伺申上、今日之役替立寄合候
後左二

改名、勤方は迄之通

飯嶋氏

御名代一向日記入念

田波氏

賄方出入番兼金銀出入帳合

黒田氏

賄方見習

加東氏

右之通にて類焼ニ付、太儀料申渡ス、子供迄台処其外出入
もの之支配人衆賄方より被相達候事

三月十一日曇八ツ時過雷、白雨

一 植村新左衛門殿より肴三種到来ス

同十二日晴天
一 植村新左衛門殿入来

三月十三日天気夜中雨朝之内雲又暮時雨
一字佐美氏、小林氏同道日本橋向御地面深川品川町見分、八幡宮へ参詣、吉原仮宅見、平清三郎、御酒、夜食頂戴、暮半時頃帰店也

三月十四日夜中雨寒く、天気
一 今夕窪田氏、山中氏江書状出ス、小原御所御名代三郎助様へ伺ス、御聞濟ニ付下ス、四十ヶ所普請金添借之儀、申遣ス

三月十五日天気寒く
一 御勤番様江当日御願申上ル、今昼九ツ時前伊勢町河野氏奥土蔵二階より出火、土蔵屋根突御斗ニて鎮火致候、尤風もなく手廻ニ相済申候

一 今八ツ時頃より神田辺大伝馬町一丁目日本町伊勢町小田原町靈岸嶋北新堀宮崎丁江地面見分、十三日之通ニ致ス、田所町より村田と申うなぎ屋夜食御酒被下候

三月十六日天気昼後曇
一 八ツ時頃三郎助様御到来也、御重詰にて御酒頂戴仕候、桃次郎様も被遊御座候、夕方飯田市、市兵衛殿同道、深川一ノ鳥居中村屋と申茶屋より倉田屋と申方へ参ル

三月十七日申雨風強南風七ツ時頃より追々止
一 才領弥吉来ル、明日より勢州へ参り、夫より京都へ出ル由也、大森しそ漬二皿到来ス、内巻皿岡田氏へ遣ス、今晚

店詰切中へ看到来、夜食煮物ニ成ル、御相伴ス、鯨付やき也

三月十八日酉五時雨、曇、四時地震

三月一九日戌天氣折々雲、夜五ツ時過地震

一類焼御合力目録家守小家掛料被下方目録出来、都合式冊今夕店状に登ル

三月廿日亥、曇折々雨

三月廿一日子、曇折々雨

一京都宿元江書状出ス、外渋紙包入、帳面■■■■下着、古足袋、風呂敷中小弔ツ、十日切登ス、賃錢払

三月廿二日丑、快晴

一今晚丑刻過下谷池之端松平越中富山出雲守様御上屋敷焼失

卯刻火鎮

一井上仁助殿より八日出書状相達ス

三月廿三日寅、薄曇、七ツ半時より雨

一今晚八ツ時頃本郷東盆坂町出火、無程火鎮ル

一昨夕松月堂かねかそぼにて御酒頂戴ス

一今昼後和泉町中嶋屋へ參ル、酒出ル、無程帰店ス

三月廿四日卯、雨天

一中塚徳次郎殿御用向相濟、明後日出立帰京ニ付、福井氏同道入来

三月廿五日辰、雨天

三月二十六日巳、曇追々晴ル

一明朝出立にて中塚氏帰京為暇乞字佐美氏同道本店江參ル、尤同氏二階居間江も參ル

一元方穴藏出入無之候得共、氷溜り替出シ候ニ付跡にて見分いたし候事

三月廿七日午、曇天夕方追々晴ル

一今晚七ツ時頃手住ノ方ニ出火有之

一今昼後齋藤氏へ參ル、酒出ル、見舞練羊かん一棹持參ス

三月廿八日未、天氣

一昼後難波町江參り、夫より兩國回向院、又淺草觀音へ參詣、七ツ時過帰店ス

三月廿九日申天氣十方暮ニ入

一今晚九ツ時過大伝馬町弔目横町四・五軒焼失、無程火鎮ル、又八ツ時過小石川辺出火有之

一朝四ツ半時頃より宇佐美氏、原田氏、市藏殿同道、室町二町目、小網町、伊勢町、豊嶋町、橋本町、淺草誓願寺、御前町、花川戸町、猿若町、御地面見分、御藏前八幡宮、成田不動、猿若町万屋へ相越、三郎助様御出被遊、御酒飯頂戴、夫より堀より舟にて向嶋江越、三廻りへ參詣、桜余程遅く、隅田川土手植木屋へ松楓庭見分、木母寺梅若権現へ參詣、夫より渡舟、真先稲荷へ參詣、又万屋へ戻り御酒・夜食頂戴、夜四ツ半時頃帰店ス

一今朝四ツ時過十一日出より十七日出迄京都状入、川支有之

三月晦日酉、曇八ツ時過より雨

一慶徳氏入来、京店支配人中へ書状認、京店押合二月廿七日、

間之町店当月十日押合三付、宿元へ両店より平鱧頂戴之段、

十四日出申来ル、其礼状也、川しま氏へ返書出ス、宿元へ

も書状右三通二日夕出ル

四月朔日戌、夜中強雨風吹、朝五ツ半時頃より晴ル

一当日御礼御勤番様へ申上ル

一朝四ツ時頃より猿若町万屋へ參ル、三町目芝居河原崎權之

介座、万屋より高麗屋□名古屋山三・岩井納升、不破伴左

衛門・板東彦三郎、三浦屋小紫、市川新平、市川団十郎ノ

芝居也、三まく過、二町目市村座小西と申茶屋所より先日

道成寺うた右衛門、羽左衛門、とへ三十郎也、大面白事也、

老町目中村勘三郎座、梅幸、多見藏也、万屋にて酒飯夜九

つ時頃帰ル、福井庄兵衛殿内室も被罷越候

四月二日亥、天氣八ツ時頃曇、白雨、雷鳴、無程晴ル

四月三日子、天氣北風吹

一今日芝口店支配人市次郎殿并同店つき屋被召出、先月十日

出火同店台所雜藏より出候事、今日於御白洲市次郎并来つ

き屋押込被仰付、奉恐入候、早く御免被成候様奉祈候

四月四日丑、天氣

一今夕無番状登ル、貳拾六ヶ所ノ方（二千五百）七仙サ舟兩余、四十ヶ

（五千五百）
所サ仙サ舟兩拜借願書登ル

四月五日寅、天氣

一今昼後神田明神江參詣、夫より御藏前祇園社八幡宮浅草觀

音參詣、七ツ時過帰ル

四月六日卯、天氣、夕方より曇

一八ツ時頃より齋藤氏江、三郎助様、近藤氏、藤村氏、福井

氏、増田氏、宇佐美氏同席、吸物御肴差身等ニ而御酒出ル、

菜飯田楽、菓子碗田楽、きのめ、■■之両様、鎌田平助殿

料理田楽至極宜、暮時過退出、川岸より舟ニ而何れも深川

仲町ニ而吉原飯宅みなと屋と申候所參ル、跡より飯田氏被

罷越候

四月七日辰、曇、八十八夜

一今夕初鯉頂戴、誠結構也

四月八日巳、昨夜中より雨、五ツ時より追々晴ル

一元方穴藏出入有之、三郎助様御立会、下拙、宇佐美氏、

金曾万七仙サ舟兩、銀力舟チシ（六百八十貫匁）、惣有高也

一七ツ時頃齋藤氏へ一昨日之挨拶罷越、夫より茅場町薬師江

參詣、無程帰店ス

四月九日午、天氣

一今朝六ツ時吉原と千住之間ニ小塚ヶ原と申女郎屋有之、焼

失、五ツ時過火鎮ル

一今早朝より出水六平出入与介案内、四ツ谷、内藤新宿ノ方

よりばたん屋敷見物、十二そう熊野十二社大権現山芝原にて池桜楓有之、景宜、夫より堀之内妙法寺江参詣至極結構也、信楽と申茶屋にて酒飯ス、夫より大久保と申所三百人組与力之組屋敷、所々ニ桐嶋有之、誠見事山吹等も有之、植木屋同様之様子ニ相見へ申候、雜司ヶ谷鬼母神参詣、夫より護国寺へ参ル、觀世音石段兩側桐嶋見事最中にて山門より見上ケ候而至極宜候事、戻り筋違にてうなぎ酒飯、暮時帰店ス

四月十日未、曇折々晴ル、暮時頃より雨

四月十一日申、夜中より強雨風、昼後折々晴ル

一有馬備後守様、日光御祭礼奉行、今朝御発駕、加納遠江守様御在所へ御暇、今朝御発駕也

一仁孝天皇崩御ニ付、三月廿七日より普請差免ス

一渡世之鳴物其外共四月四日より差免候、尤町々自身番も同日より相止候様可致候段、御触出候由承ル、触

四月十二日酉、曇、夜中風雨折々晴ル

一窪田氏、山中氏より返書、四日出、来ル、宿元并井上氏よりも書状着

一元方穴蔵普請御聞濟返書無番状着、并拜借筋ニ付無番状着

一今昼後薬師様江参詣、夫より深川八幡宮社内弁天御開帳ニ付参詣、永代橋際にて酒飯ス、七ツ半時帰ル

四月十三日戌、曇折々晴ル、八時小雨、又折々雨

四月十四日亥、曇夜中雨

一日光山御代参、加藤東七殿今朝出立有之、供近江屋也

一松坂店中村六兵衛殿出府、奥州店江被罷出候ニ付、着祝、飯田氏同道、向店江参ル

一松田徳右衛門殿内室初座、女子出生、為祝飯田氏同道罷越候

一芝口店御咎中ニ付、見舞として罷越候、帰り尾張町横道うなぎ屋へ罷越候

一今夕一文字屋を改め海老屋也

四月十五日子、天気

一今朝向嶋辺江罷越候、飯田氏同道猿若町万屋へも罷越候、夫より尾張屋彦太郎へ越候

四月十六日丑、天気

同十七日寅、天気薄暑

一今日四ツ時頃より田波氏御案内被下、岡田氏一緒ニ増上寺権現様御神事ニ付参詣、常々参詣不相成、夫より清水屋と申料理屋へ罷越、至極宜、出入与介来ル、暮時過帰店ス

同十八日卯、天気薄暑

一今六ツ半時頃立、出入与介頼道筋にて朝支度ス、保土ヶ谷泊り、昼支度、河崎万年屋也、参り掛御丸之内より芝御殿山へ罷越、翌十九日金沢東屋泊り、九ツ時前着、曇折々小雨也、八景見物供出入与介

廿日巳、天氣夜中事風強雨
一今朝五ツ半時東屋立、昼支度者程ヶ谷八ツ時金川大米屋泊

り

廿一日午、天氣

一今朝五ツ時過大米屋立、昼支度大森山本大師様江參詣、品川武藏屋昼休、酒飯ス、今日公方様右大将様御簾中様御浜江被為成通、三町目にて人留、夜五ツ時明キ歸店ス

廿二日未、天氣折々曇雨

一元之助様御義、御勤番為御代り合、当月九日京都御発駕、東海道勢州江御廻り御日積之通、今七ツ時過御機嫌克御着

府被遊目出度御儀奉存候、為御出迎品川へ飯田氏被出候、

岡田氏も被罷出候、与七店玄関前御出迎申上候事、右御附

和田作兵衛殿

四月廿三日申、天氣

一今朝六ツ時芝口店支配人市次郎殿、北御馬所より被為召、押込御差免、立料等不被仰付、相模屋方奉早速御勤番様方へ御祝申上ル

四月廿四日酉、天氣

一朝四ツ時過頃、出水様御供にて真盛寺へ參詣、夫より三廻り江參詣、猿若町万屋にて中飯、御酒被下、二町目芝居入彦太郎へ越

四月廿五日戌、天氣

一今四ツ時頃より三廻稲荷ニ而芝口店御差免三付、御神楽今明被相務、店々支配役迄兩日割合參詣申參り、則下拙飯田氏同道參詣、御神楽御祈念相濟候上、程々御馳走頂戴ス、七ツ時過一文字屋へ越、大黒屋文四郎仮宅へ參ル

四月廿六日亥、曇九ツ時頃より雨

一今日三廻り江三郎助様元之助様桃次郎様御付何れも原氏被參候、宇佐美氏昨日より出勤ニ候得共、睨卜無之三付、不參被致候

一京大仏へ返書出ス

四月廿七日子、八せん入、天氣、向暑

一朝之内、飯田氏同道芝口店江一昨日礼ニ罷越ス

一今日巳秋季諸目録押合、下調暮時追々改ル

四月廿八日丑、天氣、夕方曇

一去巳秋季目録押合、三郎助様桃次郎様御立会、与七相務候

差身

鱈魚二種

うと

岩茸

わさび三盃酢

香の物 二種

白みそ

汁ふぐ皮

ふき

△やき

平わらひ 但、煮物鯛

竹ノ子 主中様斗

かゆ

引盃
酒

吸もの 蛤
薄汝

差身
小皿 目白

卸

二枚盃 出舟入舟也

四月廿九日寅、夜中より雨、夕方止
一今夕諸目録京都へ為登三成ル

大

五月朔日

一当日御祝義御二方様江申上ル

同二日辰、夜中雨、今朝曇、夜五時地震

一今日元方穴藏出入有之、且普請二付見世穴藏へ入ル有高
(一)三千五百 (六)四百四十貫匁
金イ万マ仙サ舟両、銀カ舟ツシ、

同三日巳、曇八ツ時頃晴ル

同四日午、天気

一昨日より元方穴藏普請取掛ル

一江戸店通勤支配已上相果候もの取調之儀、京より申来、今

夕被罷登候

五月五日羊、夜中雨、天気

一五ツ半時頃より有馬様御屋敷内水天宮并麻布壺本松山崎主
税之助様御屋敷内やけ、清水御守出水六平殿半六殿一緒参
詣ス、九ツ時帰店

一当日御礼御勤番様并店へ罷出ル、御交代御献上物無滞相濟
致方奉存候事

五月六日申、天気

一宗寿様御祥月三付、真盛寺へ元之助様挑次郎様下拙宇佐美
氏御供にて参詣ス、戻り三廻稻荷参詣、植木屋、夫より浅
草観音参詣、万屋へ寄、御酒飯被下候、屋根舟にて暮時前
帰店

五月七日酉、天気、折々曇、八ツ時頃雨

一京宿元より先月廿五日出書状着、さらし浅草ばつち下ル

五月八日戌、天気、薄曇

五月九日亥、曇、昼後雨、七ツ時雷鳴

同十日子、天気、折々曇雨

同十一日丑、天気

一明後十三日、月並御寄会、廻文向店支配人中より来ル

五月十二日寅、天気

一中村六兵衛殿、今朝出立、帰坂被致候、向店へ暇乞可被致
候所、風邪三付、支配人衆より断申述被呉候

一今日日待夜食

猪口 こんにやく
白 あへ

汁 とうふ
青 ミ

飛龍す
平竹之子
ふぎ

ノ

五月十三日卯、天気

一今日月並御寄会、向店ニ而被相務候、七つ時前より元之助

様桃次郎様并下拙宇佐美氏原氏出ル、主中様方御帰店、

店々談合有之、暮半時帰店、三郎助様御差支御断

平 たい

汁 坪とうふ
花かつほ

もしほ

中皿めしそう
かつほ
うり

御

酒三盃

ノ

五月十四日辰、天気

一今七ツ時頃より飯田氏、嘉介同道、両国より舟ニ而参り、
万屋ニて一献、夫より一文字屋へ参ル

五月十五日巳、天気少々曇、八時頃小雨

一今昼後、元之助様、近藤良三様、下拙、飯田氏、屋根舟ニ
而佃嶋辺へ参ル、網舟雇、御酒持参也、七ツ時過帰店

五月十六日午、昨夜中より雨

一今夕、窪田氏、山中氏へ書状登ス

一元之助様うけ御祝有之候

五月十七日未、曇追々晴ル

一今日三郎助様江江戸店より御振舞、式町目市村座芝居元之

助様桃次郎様御相伴、下拙、宇佐美氏、飯田氏、跡より岡

田氏も籠ニて御越、七ツ時打出シ、長吉・長五郎、万屋ニ

て御酒、御夕飯被下候、舟ニて深川仲町着、松屋へ越ス

五月十八日申、天気、薄暑

一今日万屋おやす来ル、夕方仲町中村屋おきた、おさく、外

二屯人来ル

一今日元方出入有之候

五月十九日酉、天気

五月廿日戌、天気

一宗雅様八十歳御賀、去ル十二日御祝被遊、五ヶ所より御祝

義上ル、通支以上江三ツ組御盃一箱被下候段、同夕支配人

衆申来ル、仍之笹田氏宛御礼認上ル

一今夕飯田氏、原氏より

三郎助様江御出立被差上候ニ付、元之助様、下拙、宇佐美

氏、和田氏、岡田氏御相伴候

取看重詰 五種

吸もの 赤ミそ
団子蒲鉾

順才

差身 二種

めし

しろう入

向うり

菓子椀

てんがく

右之通跡より挑次郎様御出御相伴被遊候

五月廿一日亥、天気

一今七ツ時頃より三郎助様挑次郎様、松木殿□向大黒屋と申

うなぎ屋へ御越ニ付、下拙岡田氏御召連被下候

(8) 土産

土産

別宅衆
一大長崎煙草 二ツ、齋藤氏
香煎 壺筒 宇佐美氏

役人衆

一大長崎煙草 壺

扇子式本 鼻扇

飯田氏より
小林迄
五人

一大煙草 壺
水砂糖 一面

賄方
黒田氏

一大煙草 壺
香煎 壺筒

在家
櫻井氏

香料 金式百疋

若き衆九人

一手拭 壺
扇子 壺本

子供
津田氏より
九人

一小煙草 式つ

三郎助御供
岡田氏

一鳥目 三百文

同
六平殿

一小煙草 壺
香せん 式

鎌田
平助様

一大煙草 壺
香煎 壺

林留右衛門様

庄利 一味噌松風一箱

三郎助様

一 代金貳朱	御在戻御窺
一金五十疋	銀方 庄兵衛
一 錢三百文ツ、	上番 源七
一 錢三百文ツ、	定出入 与助
一 錢三百文ツ、	太平
一 錢貳百文ツ、	平出入 三人
一 錢三百文	飯焚 長介
一 錢貳百文ツ、 〔付紙〕 「出立之節ハ金五十疋ニ致遣ス」	髮結 乗藏
マヅカ舟文 メ金七朱	
一 薄皮おほろ 香煎	中嶋 弥七
二袋 三つ	
一 香煎 煎代金百疋	植村 新右衛門
貳筒	

一 小煙草	三つ	植村新六
香煎	貳筒	嘉介
一 肴代金五十疋		右同人類焼見舞
一 肴代金百疋		池永弥兵衛
一金五十疋		同おさき

(9) 金出入口

金出入口		
入 金壹歩貳朱	紙入有	
入 金壹両	御店より被下金	
入 金貳朱	竹屋丁様より被下金	
二月廿二日		
○		
才領弥吉		
給金三步之内渡		
同廿三日		
一金貳歩	けあけにて渡	
同		
一金貳歩	石部扇屋御渡	
入 金二十五両	路用	
同廿四日		
一金壹両	亀山大和屋にて渡ス	

同廿五日 一金貳歩
同廿六日 一金壹兩
同廿七日 一金貳歩
同 一金壹兩
同 一金壹兩
二月廿八日 一金壹兩
同廿九日 一金貳朱
三月朔日 一金壹兩
同二日 一金貳歩
同三日 一金貳歩
同五日 一金貳朱

桑名福嶋にて渡ス
御油いてう屋にて渡ス
舞坂茗荷屋にて渡ス
浜松にて渡ス
川口次郎兵衛挨拶
嶋田宿にて渡ス
沖津清水屋茶料
沼津にて渡ス
小田原二而渡ス
戸塚にて渡ス
江戸親方
庄兵衛○

同 一金貳歩貳朱
入 四〇六十文
同 一三〇六百文
同 一金貳歩
同 一三百文
三月七日 一金貳朱
同 入 八百拾貳文
同 一六拾四文
同 一金壹歩
同 一金貳朱
同 一金壹分貳朱
同 一金貳朱
同 一金七兩也

兩替
かい
江戸店
台所へ遣ス ○
若き衆九人 ○
香料
出水
六平へ遣ス ○
右代り
足袋貳足絹紐替代
植村新左衛門土産之内 ○
植村新左衛門類焼見舞 ○
池永氏 ○
上野にて酒肴代并茶代
下り道中入用 ○

一金壹歩式朱	才領弥吉給金三步之内替渡ス	三月廿八日	およね殿洗物代 ○
一金壹歩	○ 右同人祝義遣ス	四月朔日	
一金壹歩式朱	右同人かし、京都にて受取テ	一金式歩	深川わり飯田氏渡 ○
	渡	同二日	
差引	才領弥吉渡かし	一金式朱	兩替
入 金八兩		同	右代り
残而 金拾五兩式歩式朱		入 八百十式文	
錢九百八文			
三月廿日			
一六百六十四文	○ 京宿行十日切渋紙包下シ賃	同夜	茶羽折しミ落し代
同廿四日		一三百文	小袖沓ツしミ落し代
一式十四文	箱紅入はみかき代	同五日	
同廿五日	うり	一金式朱	兩がへ
一金式朱	右代り	入 八百十式文	右代り
同			
一三百式拾文	下駄沓足	同	うなぎ茶漬代
同	波見□さか共	一五十文	浅草茶代
廿七日		同八日	
一四百三拾式文	練やうかん一棹代 ○	一式百式十四文	麻裏そうり一足

同十二日
一四百文

ひきつき一

差引
残而 金九兩也
錢七百元

同
一貳百七拾貳文

酒飯代永代橋際

五月三日

一金貳兩貳歩
貳百七十六文

文嘉弘 ○

同
一金貳朱

両がへ

同
入 八百拾貳文

右代り

同
一金貳歩

彦太郎ノ岡田渡 ○

同廿一日
一金壹兩貳歩
七百元

金沢行入用 ○

同
一金壹分貳朱
百七十文

紀伊国屋きせる八本 ○

四月廿三日
一金貳朱

両かへ

入□

同
入 八百拾貳文

右代り

同
一金貳朱

皮錢入貳ツ ○

同廿五日
一百文

稲荷へ御膳上ル ○

同
入 百六十文

右つり取

五月二日

一金四兩下

四十四文

一貳百六十文

本店呉服物代 ○

同
一貳十四文

亥入はみがき代

同四日
一百四十文

およね殿洗物代

四月中小遣

同
一金壹歩

両替

同
入 老ノ六百廿四文 右代り

五月四日
一三百文

○ いセ屋茶物仕立もの代拾真共

同
一金貳歩
貳百貳十五文

○ 湊屋并万屋わり岡田渡 ○

同
一百文

愛宕茶料

同
一百三拾六文

水天宮御守清水御守料

七日
一百拾貳文

砂振出し三駄代

同
一貳百文

小遣茶代、内茶漬代

八日
一貳百三十貳文

本貳組

残而 金四兩三歩
五百五十七文

貳番帳二有

5 江戸勤番諸用留

(表紙)
弘化三丙午年五月

江戸勤番諸用留

貳番

(1) 六月十九日、七月二十五日

六月十九日申、夜中白雨、天氣、折々白雨

同廿日酉、雨折々止

一昼飯後御用貸實物貸并上野証文并沽巻状見分ス、飯嶋氏

六月廿一日戌、雨折々晴ル、昼後雷少シ

一今日臨時元方御寄会之上、藤村氏死後元ノ格被仰付候段、

同家おすみ殿へ被仰渡候、名代として親類福井庄之助殿被

罷出候

たい 白ミそ

平ふゆ 汁ワむ入

薄汐 かも瓜

小皿赤貝

瓜 酢あへ

酒

一才領与八芝口店下り候ニ付、昨日着之由今日来ル

六月廿二日亥、夜中より雨、夜中雷、四つ半時雷、昼後晴ル、
残暑強く

一今朝本店藤村氏死後元格被仰渡候為祝参ル、其節中井氏
より銀談有之

一今日上野町貸証文改ル、飯嶋氏

六月廿三日子、曇、五ツ半時頃より晴ル、昼後より雨又止
一今昼後より宇佐美氏取扱御地所式十六ヶ所、四十ヶ所、江
戸店持并活卷状并家賃上り有之活卷状預一札に改候事

六月廿四日丑、夜中より雨、凌克昼後止、北風吹

同廿五日寅、夜中風全朝止、雨天、秋暑

一今昼後中嶋氏へ参ル、そば南はん酒出ル、堺町買物、夫よ
り深川へ参ル、七半時頃帰ル

同廿六日卯、雨昼後止折々晴ル

六月廿七日たつ、強雨折々晴

一今日五宜五月分目録押合改候事

六月廿八日巳、晴、折々雨天

一今日店見世早仕舞

一今夕右同目録為登シ相成候

一明日山王御祭礼三付、附祭り出シ、印等通町ニて見物、本

町見物大和田うなぎ酒飯ス、暮時過辰ル

六月廿九日午、天気折々白雨強

一今山王御神事二付、町々組合附祭り出シ、印等晝より出ル

一今日店見世休、昼時頃本町壱町目御地面家守江原氏御案内、

和田氏同道参ル、出シ印御祭礼御輿三社也、七ツ半時帰ル

六月晦日未、快晴、昼時迄之内折々小雨
大

七月朔日申、天気今朝五時過ぎ地震、折々曇、小雨
一当春季中元方請納書報登ル、尤元印出入有之候

一先月十六日より雨天強ニて上州川俣堤切崩、深川本店川下

ニて洪水、委細無番状ヲ以通達有之、尤先月十五日出より
書状川支ニて着無之候

七月二日酉、曇、折々小雨、昼後晴

一今夕山中氏へ書状出ス

七月三日戌、天気夜中折々雨、昼後白雨

同四日亥、夜中雨、朝之内雨、昼後晴ル、蒸暑

一今晚店寄会相務、元之助様御立会被遊、式目飯田氏相濟、
届物一札印形取被申候事、賄方役条目御請書ニ東七殿印形
被致事

右御引取後類焼普請掛り江太儀料被下候

銀サ枚 (五) 後見

宇佐美氏

支配役

金サ舟疋ツ、 (五百) 原氏

組頭

小林氏

平家方

金工舟正（七百）
原田政七殿

別段金ツ舟正（四百）

金七舟正（二百）
鎌田平介殿

一角前髪河野為五郎殿、此度本元服申渡ス、御勤番様江も御

伺申上候

一催促方久左衛門殿、丈左衛門殿、伝兵衛殿、平介殿、雇料

別段心付共書付出ル

一男頭上番其外諸出入髪結下男等中元祝義書付出ル

七月五日子、雨、折々曇晴ル

一今日日柄宜ニ付、河野為五郎殿、本元服被仰付候

七月六日丑、天気、折々雨

同七日寅、雨終日、今暁子刻地震

一当日御礼元之助様江申上ル

朝

玉子煮ふき

平皿椎茸

汁常ノ

小芹
氷こんにやく

めし

一今日店見世休日出番なし

一村田恒五郎殿、沢木新四郎殿、京都先月十五日出立、川支

之上、大山廻り、昨夜無難帰京被致候

大井川一日支、小田原ニ八日ニて川開不申、大山下道川流

舟渡しニて廻道ニて帰京

一昼煮物馬黒

差身 白ミソ
汁とうふ

御大こん 浅草のり
しそうみ

一字佐美氏内室安産、女子出生有之、目出度存候、尤初産也

七月八日卯、明六時前強雨、天気

一村田氏、沢木氏、着府ニ付、本店・向店江祝参ル、尤宅へ

ハ出立候而断ニ付、参り不申候、其段断申達ス

一字佐美氏内室安産ニ付、為祝鯉節五沓袋贈ル、明朝祝ニ罷

越申候積

七月九日辰、明六時前、白雨風、朝之内雨、五ツ半時頃より

晴ル

一小林茂兵衛殿より泡盛老德利到来ス

一今夕西田氏へ洪水銀子書状出ス

七月十日巳、天気、天一天上

一七ツ時頃より浅草観音江四万六千日参詣、夫より文嘉江寄
申候

七月十一日午、天氣、式百十日穩、残暑甚敷

一今夕貸附新条目寄会、別宅、支配人、組頭、平、若キ衆、

催促方久左衛門殿、丈左衛門殿、伝兵衛殿被罷出、飯田氏

右条目読聞七被申候、一旦組頭已下引取被申、久左衛門殿
外番人当季雇料心付并川越行心付等被遣候事

但、鎌田平介病氣ニ付、罷出不申

七月十二日未、天氣十方暮終、折々曇秋暑強

一今朝湊崎家主忠兵衛方へ見分見舞旁握飯沢庵等為持、原田

政七殿罷越、尤土手より船也、座敷向床上耆尺五寸程出水

長左衛門、新田百三十八間堤切也、土俵土無之大豆詰わう

くうノ俵ニて水留有之、大豆凡三万五千石之由

一今夕盆前仕舞状也

七月十三日申、天氣、秋暑強

一支配人衆より雨天見舞被下候、御礼状之返書六月廿三日ニ

て今日相達

一京六月十五日日出、十六日出、十八日出、十九日出、廿日出、

廿二日出、廿四日出書状、今昼時着、但、十七日出、廿一

日出、未着

京廿二日出御用御状より

一女院御所崩御ニ付、鳴物普請御停止之御触、六月廿二日

ニ出ル、日数之儀ハ追而可相触候之儀、心得候

七月十四日酉、天氣

一今昼時頃、六月十七日出着、窪田御氏より盆後早々歸京之

御内意書状着、同日出元方御状も着、下拙歸京之御通達有

之、則元之助様より被仰渡候

一今日元印出入有之候

一三郎助様より於京都御沙汰之儀有之、窪田氏より下拙、齋

藤氏へ書状添目錄下り申候

金^(十)兩 宇佐美氏へ

金^(三千)馬仙疋ツ、飯田氏へ

原氏

ノ

右元之助様へ申上、於奥兩人立会被仰渡、尚以礼申上引取

申候、尤中元御祝義も申上ル跡勘定場ニて役人之分迄相並

左之通

白ミそ

小皿刺鱧

汁刺鱧

差身

なすひ

めし

鉢さや豆

酒引盃

右之通相濟、目出度存候

一七月十五日戌、天氣

一今明日見世休候、出役兩日割合有之

朝 平玉子煮ふき

汁

椎茸

氷こんにやく

小芹

めし

昼 平あひ鴨

すいき

赤ミそ
汁つまみな

夕

七月十六日亥、天気

朝 平待兼とふふ

汁

鱈すいき

青豆

こまあへ

一昨十五日、宿元より書状着

昼 冷そうめん

煮汁

からし

ミそ
汁玉子
なすひ

飯

一窪田氏へ返書認ル、十七日日附にて十八日初便ニ出ス

七月十七日子、天気

同十八日丑、天気、昼後両風強、夜中止

一今朝四ツ半時、八月節入

一今昼後本帳改致候事

七月十九日寅、天気

一今昼時前より兩國信濃屋より屋根舟ニ而宇佐美氏、原氏御案内、向嶋瀧崎村御地面出水之引跡見分、夫より浅草山谷川口と申料理屋にて御振舞、酒飯被下候、隅田川見にて、至極景宜敷、又舟ニ而兩所へ初夜時頃帰ル、夫より歩行にて四ツ時頃帰店ス、嘉助殿親方庄兵衛殿来ル

七月廿日卯、天気折々曇、八ツ半時頃降雨、其後雨

一京当月二日出より十一日迄書状着、尤去ル七日晚より東北より大風続、雨降、三条橋、五条橋落候由、委細別昏より通達有之、当月廿三日女院様御葬送り候ニ付、五条橋昼夜掛り有之由

一昨十九日より明廿一日迄、江戸御停止普請ハ不苦旨、女院様候也

七月廿一日辰、折々雨、昼後天気、式百廿日

七月廿二日巳、天気七ツ時頃白雨

一今朝原氏同道、店々并当役中宅へ近々出立ニ付、為暇乞罷越、戻り大金ニ而うなぎ御酒飯頂戴ス

一今七ツ時頃、池泉氏入来、鮎并張箱追々細工もの到来

七月廿三日午、天気

一昨晚、原氏より左之通

吸もの
赤みそ
たい

菜
松露

差身
かつほ節

卸
のり

重
鯛煮付
車海老

八百善ノ

きせとうふ

くり
れんこん
□椎茸

椀
あんかけ
すくい玉子

わさび

順才

さとう

一今四ツ時頃より宇佐美氏、小林氏、案内にて梶町出来、見分ス、夫より赤坂裏伝馬町二丁目御抱屋敷見分、桜田鍛冶町見分、芝口手前にて小林氏相分ル、夫より芝口店小林惣助殿宅、岡田源三郎殿宅へ罷越、夫より松村町引負地當時箱崎町家守庄兵衛名前、間口十一間奥行廿壱間三尺、桔梗屋小兵衛利足滞之内、引取候由、右地面見分右之節昼支度赤坂にてうなぎ茶漬にて頂戴ス、七時半時頃帰店、且山王御社江参詣ス

一今晚飯田氏より明昼出立、御飯明晩御昼可被下段、被仰下候

七月廿四日未、天氣秋暑強

一今朝上村新左衛門殿、同新六殿、林留右衛門殿へ為暇乞罷越ス

一今昼時出立、料理左之通

鱈魚たい

白みそ

赤貝

汁とふかん

うり

丸つき

こふんふ

かつほすり流し

三盃酢

わさび

平たい

めし
相伴宇佐美氏

薄汐

香之物

煮物たい

若松三ツ組盃

吸物焼きす
白髪みようか
すまし

中皿縮差身

しそ身
わさび

ノ

晩 勘定場にて
盃事

薄しほ

吸もの蛤

八寸巻鯛

小梅干

豆

福祿寿三ツ組盃

南様御年賀御下り

白ミそ

吸もの鱈

なすび

寄玉子

車海老

硯蓋栗巾頭

金紙昆布

ゆりね

砵

鯛 そうめん

ゆ

差身かつほ

しそう身

白瓜

卸

醬油

酢みそ

甘 赤貝

白うり

岩茸

三盃酢

小付飯

中皿 鯛やき

きじ

あらめ

ゆり生が

めし

香之物奈良漬

もみ大こん

く

右之通にて昼出立被下候節、跡ニ而御振舞料、其外品々御

餞別被下置候

七月廿五日申、天気

一今日朝四つ半時頃、川村嘉右衛門殿入来

一植村新六殿入来

一店々別宅中支配人衆追々廿二日より入来

一昨日中井茂兵衛殿入来

(2) 五月二十二日〜六月十八日

五月廿二日子、夜中より雨、八時半時頃より止
正月分

一今日稻荷講、朝四ツ時頃より

元之助様、桃次郎様、宇佐美氏、飯田氏御同道、御越被遊候、下拙義不參ス、万事本店世話取扱之由

五月廿三日丑、快晴

一今四ツ半時頃より海ぞく橋通り候処、三郎助様、桃次郎様、芝口岡田氏、御舟にて御懸候之処、御呼掛ニ付、夫より御舟へ御供仕、稻荷へ御參詣、夫より万屋にて御酒、飯御相伴之上、蒙御免二丁目市村座道行見物、夫より又万屋にて老人酒飯ス、夫より一文字屋姿へ參ル

五月廿四日寅、天氣、昼九ツ半時地震

一三郎助様、桃次郎様、弥明朝御発駕、中仙道御旅行、善光寺并松坂へ御廻り御帰京ニ付、桃次郎様、芝口店御習学ニ付、同所へ為御暇乞罷出候

一岡田源三郎殿方、此度上京被致、右御供ニ有之候ニ付、宅江も罷越候

一齋藤専藏殿、全快ニ付、今日出勤被致候、乍併未暇与不被致候間、先勝手勤ニ被致候様相談し申候

一今夕見世普請之儀、無番状より通達有之候

一今夕より御勤番所江被遊御出候、桃次郎様

一今夕御出立後、御暇乞申上ル

五月廿五日卯、天氣雨天、五ツ半時頃より止、追々晴ル
一今朝三郎助様、桃次郎様共、御機嫌克御発駕被遊候、板橋

へ為御見送り宇佐美氏、原氏、被罷越候、下拙も罷越、伊

勢甚にて御酒飯被下候、板橋宿はた橋迄御見立申上候、本店福井庄兵衛殿、鈴木定七殿、向店夏池嘉七殿、芝口店池田文三郎殿、御見送り板橋へ被罷越候

一戻り宇佐美氏、原氏、出入友平、案内牛込水道町御抱屋敷見分、大金ニ而うなぎにて御飯御酒被下、七ツ時前帰店ス
五月廿六日辰、天氣明け六時地震、夕方曇

五月廿七日巳、天氣
一中井茂兵衛様、江戸勤番被仰付、今七ツ半時頃道中無難着有之候

五月廿八日午、天氣夜中風強、向暑

一今日両国川開場始ニ付、飯田氏御案内被下、七ツ時頃より信濃屋へ參り屋根舟にて種々御馳走頂戴、夜四ツ時過一文
字屋へ參ル、夫より姿海老へ越、親方庄兵衛同道也

五月廿九日未、天氣

一中井氏供才領忠八持參、井上仁助殿より益寿糖一箱到来
一今晚七ツ半時頃下谷金杉町出火、無程火鎮ル

当月廿日之

一京都宿元より書状着

一当廿六日夕、南様へ御礼状下ス

一今夕出水様へ岡田氏宛以若祝御在府中之御礼状下ス
一本店井上氏へ書状下ス

五月晦日申、天氣向暑

一京都廿二日出、窪田氏より書狀到来、歡喜天尊御祈禱相濟

御守頂戴ス

一中井氏入来、芝口店三月十日出火ニ付、玉木屋并家守市兵

衛之儀談じ有之

閏五月朔日酉、曇、八ツ時過少し雨

一御勤番元之助様へ当日御礼申上ル

一沢木新四郎様、御用向ニ付、京都へ立歸り之積、上京被致

候、為暇乞入来

閏五月二日戌、曇、追々晴

一村田恒五郎様、沢木氏同道、上京ニ付、為暇乞入来、四日

立仲山道旅行之由

一京都宿元より先月廿四日出書狀着、先月廿三日去秋季目録

押合被相務候ニ付、御料理頂戴之旨申来ル、仍之支配人衆

へ御礼狀下ス

一七ツ時頃より大金へ参ル

閏五月三日亥、朝曇、天氣、暮時過小雨

一今夕本兩替町大和田へ元之助様御出被遊候、河村清安様、

御同伴、下拙、飯田氏、和田氏、御供被仰付候、無程帰店

ス

閏五月四日子、天氣、追々曇八ツ時白雨

一村田恒五郎殿、沢木新四郎儀、弥明五日出立、上京被致候

二付、本店、向店江暇乞罷越候、宅へハ断ニ付不参候

一今夕家方無番狀出ル

一京宿元并井之口屋卜久兵衛へ銀子之儀ニ付書狀出ス

一山中氏江書狀出ス

閏五月五日丑、朝曇、天氣

同六日寅、天氣昨夜中より南風強、雨、初夜時地震

一今夕月並御寄会本店ニ而被相務候、元之助様并下拙、宇佐

美氏、飯田氏出席有之候

同七日卯、朝曇、天氣

同八日辰、曇、冷氣

一本店加判名代藤村金兵衛殿義、先月中旬頃より病氣之処、

養生不相叶、終昨夜亥刻死去被致候段、廻文来ル、氣毒千

万残念奉存候、仍之本店并藤村氏宅へ悔罷越ス

一紀州様御逝去ニ付、今日より普請ハ三日、鳴物七日、御停

止、御触出ル

一紀州様御養子御相続之儀、清水中納言様江被仰出候

閏五月九日巳、曇、折々小雨

一藤村氏葬式、今九半時於真盛寺被相管候ニ付、下拙、宇佐

美氏真盛寺へ向参ル、袴羽折也、原氏袴羽折、内より供被

致候事、本店、向店、芝口店、何れも官付にて被参候、戻

り浅草雷門前女川屋めし御酒被下候、万年屋也

閏五月十日午、雨天

同十一日未、雨、九ツ半時頃より強雨

同十二日申、曇

一今夕京都店持本材木町不残地貸大下水築直し、并桶町地貸

之外四分通り借家建下地三棟之処何れも庭を取式棟建瓦何

れもなし、平屋一つはシエチ(十七八)、此節老坪マシマ位(三十三)之由

也、右通達有之

閏五月十三日酉、雨、昼後追々晴

一糸店笠松久兵衛殿上州向為替金渡方之儀ニ付今日着、八ツ

時過出店有之

同十四日戌、朝曇、天氣、蒸暑

一今夜四時四分六月節

一今昼飯後早々茅場町天神稲荷江宇佐美氏同道參詣ス、明十

五日小屋掛取払致地行、十八日店見世仮普請出来ニ付、御

祈禱料持參相糺候事、戻り下谷大恩寺前田川屋へ御案内被

下、御酒飯頂戴万屋へ立寄暮時過帰店ス

閏五月十五日亥、昨夜中より雨、折々晴ル

一当日御礼元之助様へ申上ル

一弥今朝より店見世小屋掛取払申候

閏五月十六日子、終日曇

同十七日丑、雨

一店見世普請ニ付、今朝四ツ時頃浅草正智院入来地祭り有之、
且昨日石置、今日足代出来申候

一昼後浅草觀音江參詣、夫より文嘉岡本屋長兵衛へ參ル、七
ツ時過出、大金酒出ス、暮半時帰店

同十八日寅、天氣

一店見世柱建出来候事

一本店後見役木原伝五郎殿、今般宿入婚禮弘メ相整候ニ付、

宇佐美氏、飯田氏同道、飲ニ參ル、折詰五種入、菓子被差

出候事

閏五月十九日卯、雨、折々止

一今朝より正二月分目録出来ニ付、本帳押合ス、則今夕登七

二成ル

一今八ツ時過より元之助様蛸屋丁川岸屋根舟、外二小船添、

金杉辺網ニ御出ニ付、飯田氏、下拙御供被仰付、又芝口池

田氏屋根舟ニて出合、酒飯頂戴、夜四ツ時頃深川中村屋よ

り三浦屋へ罷越、芸者老人来ル、翌朝屋根舟ニて御歸り被

遊、尚又御供帰店ス

閏五月廿日辰、曇、追々晴ル

一紀州様御尊カイ今朝御当地御発輿被為在候、昨夕より宇佐

美氏、本店中村氏同道、品川宿へ御見送り被罷出候、尤御

道中日数廿日程相懸り、六月十日頃若山江御着府可被為在

越之由也

一川越横田五郎兵衛、上野御貸付金(二千五百)イ仙サ舟(五十)兩、
方残り金(一千四百五十)イ仙ツ舟サシ(二千三百)兩、
内サシ兩濟

中南御番所へ公訴之処、段々対談上野之方立替願下ケニ相成、御用御貸付金三十日御猶予願ニ成、此方川越田畑并地所売払、不残取切損之由、元深川佐賀町之出店有之、其後絶店ニ成ル

閏五月廿一日巳、朝曇、天氣、来未五月限、当十二月迄分下

ケル

一駿河町兩側東より向店奥□隣和田七、かうり屋、水菓子屋、森令屋、路頭菓子屋、古道具屋、駕籠屋、団子并菓風呂也
一今日就吉辰白木屋店見世開一向淋敷事也

閏五月廿二日午、天氣、蒸暑

一今日五五分、稲荷講本店より一昨日廻文来ル、則今四ツ時過より元之助様、拙者、宇佐美氏、飯田氏御同道、御出被遊候、御神楽御湯相濟、昼時過万屋へ罷越、御酒飯出ル、尤本店中井氏、中村氏、鈴木氏、組頭喜四郎殿、向店松田氏、刀根氏、芝口店より組頭衆斗參詣、夫より一文字屋芸者三人夕方、平和泉屋、下拙又外へ參ル

閏五月廿三日未、天氣、蒸暑

一今朝一文字屋朝酒飯、夫より万屋より市村忠臣藏功五太刀、芝居兩度、酒飯跡より和田氏、小岩豊次郎被參候、暮時過屋根舟ニ而飭屋町河岸廻、四ツ時頃帰店ス

閏五月廿四日申、曇四ツ時過より晴ル

一木原氏、宿入婚礼弘メ之節、店表并別宅組合祝物贈り候ニ

付、店へ生肴老枚、赤飯一重来ル、拙者江も赤飯一重到来ス、序之節礼申由也

一昨廿二日、当十二日出山中氏并宿元より書状着

一今日出水岡田氏より返書着

一去ル十九日酉刻京都四条道場より出火之処、大火ニ相成、祇園御旅所より高倉通堅錦小路より綾小路迄焼失之旨京都より為知書付来ル、仍之支配人衆へ見舞旁、今夕書状出ス、委細通達状着之上也

閏五月廿五日酉、天氣、朝之内蒸暑、向暑強

同廿六日戌、天氣

一朝五半時頃より宇佐美氏、小林氏、同道、桶屋西紺屋町五間口芝田町壺町目、金杉式町目見分、新網町井戸式ヶ所并下水普請之儀、再三申出乍序見分、家主三村屋ニて休息、酒飯出ル、夫より本材木町天下水普請出来見分、七ツ半時頃帰店ス

一今夕元方穴藏出入有之

同廿七日亥、天氣甚暑強ク七ツ時曇、夕方白雨、雷鳴敵敷

一今晚七時三分土用二入

同廿八日子、曇後天氣、八專入

一奥へ去ル十九日夜、戌刻京道場より出火之処、大火ニて六角御宅間近ニて御別条無之、御歡申上ル、京御宅・小嶋氏宅御歡状登ル、中野間近三付、□かへ、歡状登ル

同廿九日丑、天氣折々曇、小雨八ツ時より白雨、雷鳴少し
一暑中見舞本店向店芝口店別宅中廻ル

大六月朔日寅、朝曇、四ツ時過より雨、八ツ時頃より追々晴

ル、八ツ時半時杉白雨、雷鳴
一当日御礼奥へ申上ル

一今晚元印出入有之候、(一) 一千八百十貫匁、
イ万イ仙兩子舟シメ、

同二日卯、天氣八ツ時頃曇、折々雨、雷少

一今夕山中氏并宿元へ書状出ス

同三日辰、夜中雨、今朝曇五ツ半時頃より追々晴ル、曇強

一先月廿四日出京大仏并宿元より書状着

同四日巳、天氣凌克

一今夕大仏并宿元へ書状出ス

一今早朝より松田氏、池田氏、林氏、中嶋屋弥七、宇佐美氏、

植村氏へ暑氣見舞罷越ス、九ツ時前歸ル

同五日午、天氣朝夕凌克

一笠岡氏入来

同六日天氣七ツ半時白雨

一今夕支配人中へ京十九之大火二付、見舞候段申来、右挨拶

と金三兩振登セ候ニ付、其段頼遣ス

六月七日申、天氣暑氣甚敷、夕方白雨

同八日酉、天氣夜中雨、八ツ時前白雨

同九日戌、天氣

一三・四月分目録出来ニ付、押合ス、今夕京都へ為差登被申
候、尤三・四月分一緒ニ被致候儀ハ已来先格不相成、此度

限引合置候

一今夕元印出入有之候

同十日亥、曇八專終

一川しま理助殿より暑中見舞状着、仍之返書明後夕下ス積

一藤村氏、壹七日為志焼まんどう一重廿一到来ス

六月十一日子、夜中雨、天氣、折々白雨

同十二日丑、天氣、折々白雨

一京支配人中より火事見舞返書着

同十三日寅、夜中白雨、天氣

一去ル五日出、宿元より書状着

一同日御店より留中御見舞御肴一折被下候段、為申登ス、仍

之明夕支配人衆へ御礼登ス

一日本橋普請、普請出来、今日渡り始之由

一南伝馬町一町目、今七ツ時頃、天王様御祭礼御仮家江參詣

ス

六月十四日卯、天氣

一店普請出来、一昨日昨日そうじ、今日就吉辰板囲取払見世

へ惣中引移り被申目出度事ニ候

一今夕宿元へ書状出ス、且泷紙包十日限京屋より差登セ候事

六月十五日辰、天氣折々小雨、北風

一今朝御藏前八幡宮并ニ不動明王參詣、夫より淺草觀音江參詣ス、四つ時過歸店、尤万屋且文嘉へ弘ニ罷越ス

一元印出入有之、金マ仙兩、（七百九十貫匁）エ舟ウシメ、

六月十六日巳、昨夜中より雨、八ツ時過雷鳴、強雨一今夕店々月並御寄会、当番ニ付勘定場二階ニて相務候、元

之助様も御出席、店々別宅支配人衆、本店組頭衆、七つ時頃追々出席有之、御越目渡左之通

平皿合かも
すいき
干山セう粉

白ミそ
汁坪とうふ、
花かつほ

めし

小皿香之もの

酒 三盃限定

例月六日定申候処、普請出来不申、延引ニ成、且是迄中皿差身もの有之候処、此度より止メ相成候事

六月十七日午、夜中強雨、今朝曇、折々小雨

立秋今朝五時半七分

一山王御祭礼付祭り、懸巻・弐・三・四町目、今日茅場町薬師別当本座敷、町年寄館氏并名主共下見有之、丈左衛門殿案内ニて飯田氏、原氏同道、朝四ツ時頃打越、昼折詰一箱ツ、丈左衛門殿より受取、八ツ半時頃相濟、青物町柏木へ

寄、入湯之上、酒飯被差出候、七時過歸店ス

六月十八日未、朝曇、天氣、折々白雨

一今日北新堀町世話番箱崎町組合附祭り、踊子本店中店ニて

下見有之、館氏并名主被罷越、昼時前元之助様御越ニ付、

下拙田波氏御案内被下候、弁当折詰頂戴、七ツ時前歸店、本店中井氏、福井氏、木原氏、増田氏被罷越候

二番口前ニ有

(3) 金銭出入式番口

金銭出入式番口

五月十日 飯田氏割合もの代 ○

一金壹歩

同十一日 出入与介より倉沢日雇 ○

一金貳朱

同十三日 黄菊茶代

一百文

同 一百文 まんちう代

同 同十六日

一金貳朱 うり

同 入 八百拾貳文 右代り

同
一四百文
櫛かんさし代

同廿四日
一五十文
藏前茶代

同廿七日
一四百文
らうそく、十匁紙廿挺

同廿八日
一金沓歩
姿海老屋祝義 ○

同晦日
一百五十六文
およね殿洗物代

同
一五十三文
さいせん茶代

残而金四両也
錢百八文

閏五月二日
一金貳朱
大金うなぎ飯

閏五月二日
入 九十貳文
右つり取

同五日
一金沓歩
紙挟 ■■■代

同日
一三十泊文
うちわ代

同八日
一金貳朱
両がへ

同
入 八百拾貳文
右代り

同
一貳百三十貳文
小田原貳張、張がへ代

同
一百文
右金物取替代

同十二日
一百文
らうそく五挺

同十三日
一四十文
はみかき、やうじ、火打石代、ほくち

同十四日
一百三十文
真鍮火箸代

同十五日
一八十四文
近江晒袴うら沓

残 金三兩貳歩
錢貳百七拾八文

同十五日
一金貳朱
うり

同
入 八百拾貳文
右代り

同	一七三拾弍文	乗下壹荷、直し代并細引仕替代	同	入 八百拾弍文	右代り
閏月十六日			同	一三百文	およね殿洗物代
一七拾六文	ちり紙五折、灰吹代		同	入 三十弍文	右つり取
同十七日			一五十四文	小遣	
一金弍歩	喜世留拾壹本、代村田渡 ○		残而 金弍両弍歩弍朱		
銭なし			錢 八百八拾文		
同日					
一金弍朱	うり		六月朔日		
入 八百拾弍文	右代り		一五拾四文	羽織袖付直し代	
同			六月三日	式匆替三百枚、熨斗包紙代	
一五百文	大金、うなぎ酒飯、藏前茶代共		一金弍朱		
同廿日			同四日		
一十六文	箸老対代		一三百七拾六文	帷子シミ落し代	
同廿一日			同五日		
一百文	黄菊代		入 金拾兩	かり、京店へ振	
同廿七日			同		
一五拾六文	茶土瓶代		一金三兩三歩	本店買もの代 ○	
同廿九日			同六日		
一弍十四文	茶代		一五十文	桜炭代	
同			同		
一金弍朱	両かへ		一金壹歩	手拭十代	

同 入 三百式十四文 右つり取

同八日 一金壹歩式朱 京店払、乗帯ノ三ツ ○
四百八十六文

同 一金式朱 うり

入 八百十式文 右代り

同 一式十四文 小麦粉代

同十日 一式百六十文 白砂糖壹斤

同 一金式朱 茶帯ノ壹ツ ○

同 入 八十七文 右つり取

同 一三百文 笑絵代

同十一日 一式拾四文 はみかき代

同十二日 一五拾文

六月十二日 一金壹両式歩

同

入 五十式文

残而金六兩壹分式朱 錢五百式十七文

六月十三日 一三拾八文

同十四日 一金式朱

同 入 八百拾式文

同 一金式朱ト 四百式十式文

木瓜つる并かんぞう

マ、替

皮裏多葉粉入 九ツ

セ、替

合羽裏同式十

ツ、ウ入替

筒多葉粉入三ツ

イ、マ入替

切筒 六ツ

ノ丈左衛門殿渡

右つり取、代五分

天王参り、さい錢茶代

うり

右代り

洪紙包京都へ十日限登せちん ○

同十五日
一金壹歩

うり、万屋、文嘉

同廿一日
一貳百文

笑絵一組

同

入 壹ノ六百廿四文 右代り

同廿二日
一金貳朱

四百八十四文

手拭十

同

一金壹歩ト
五百七拾貳文

万屋喜右衛門払 ○

同
一金貳朱

うり

同

一金貳兩壹歩
七百四文

文嘉払 ○

同
入 八百拾貳文

右代り

六月十五日
一百拾文

茶漬代并天王前茶代、さいせん

同廿五日
一金貳朱
四百文

半拾三ツ
手拭五ツ、舟セシ文

残而金三兩壹歩貳朱
錢壹貫百拾三文

同
一金壹匁貳朱

深川 ○

六月十七日
一貳拾文

松実代

同
一貳十四文

茶代

同十九日
一四拾四文

硯箱直し代

同廿八日
一金貳朱

うり

同廿日
一三百文

沙糖壹斤代

同
入 八百拾貳文

右代り

同
一金貳歩

深川若松ト三浦屋飯田渡し ○

同
一五百拾六文

大和田うなぎ

六月三十日
一四百四十八文
いせ屋洗物代

同十三日
一百文
大橋屋茶代

同
一百式十文
小遣

同
一式百四十文
およね殿洗物代

残金貳兩也
錢百六十九文

同十四日
一式百文
療治代

七月八日
一金貳朱
鯉節五本入壺袋代、宇佐美安産

同十七日
一百式十四文
玉子ノ御守料

同九日
一金貳朱
うり

同
入金貳兩
賄かたかり

同
入 八百拾貳文
右代り

七月十七日
一金壹兩貳歩
麻
芋三〆五百文代
セ、チ入サ厘替
(二匁八分五)

同
一六百文
繪三枚続、五懸り代

同
一金三分
一文字屋

同十一日
一金貳朱
うり

同
入金 貳百五十六文
つり取

同
一七拾文
はみかき一、茶代さい錢共、浅草

同
一金貳分
夕葉粉入六ツ入代
つり取

同十二日
一拾貳文
胡升代

同十八日
一百式十四文
玉子御守十料

同
一 式百十六文
麻裏そうり一足代

同廿一日
亥入はみがき
廿四文ノ十
十式文ノ廿

同
一百八文
田葉粉筒目玉紐代

同
一七拾式文
駕籠直し代

同廿三日
入 百六十文
のし包紙、つり取

同廿四日
一金沓歩
元之助様より御餞別被下

同
一金式歩
うり

同
入 三 式百四十八文 右代り

七月廿四日
一金沓歩
出立ニ付
台処へ

三 式百文
心付遣ス

同

入 金三兩沓歩
御店より被下もの四口

同廿五日
一五十六文
およね殿帷子共ニしはん洗代

同
一金式朱卜
百四文
賄方渡、
藤村氏死去菓子料わり、
木原氏宿入婚礼弘メ祝わり

同廿一日
一金式朱
うり

入 八百拾式文
右代り

同廿四日
一 式拾三文
小遣

残而金三兩沓歩
錢三百七拾文
右道中入用之口へ入ル
(裏表紙)

林与七

6 牧野様御使者上京一件記録
(表紙)

一御即位ニ付、牧野様御使者御上京ニ付、万端御世話可申上様中野御氏より被仰付候事

九月三日

一今日御旅宿烏丸通三条上ル藤田豊三郎方江中野御氏、西田御氏手前出入男利兵衛雇男文助、煤掃旁罷出、追々引取申候事

一御旅宿煤掃等ニ利兵衛文助八月十六日より参り候事

九月四日

一今日御使者御上京ニ付蹴上ケ江中野御氏御出迎トして加賀屋方江御待合候処、昼時前頃ニ御機嫌克御着有之候

御番頭

本使

小林十郎左衛門様

御使者

副使

弓崎為右衛門様

右御両所御供五人、御召連被遊候、中野御氏御案内ニ而御旅宿江昼半時頃之御着被成候付、門口江豊三郎手前御出迎申上候、西田御氏御出迎被成候、御着悦申上候
先格之通当方より御膳御酒御料理指出申候事

一当日中野御氏、西田御氏、豊三郎、手前子供勝八郎并御貸物屋井上甚三郎出入方方利兵衛外ニ下男兩人相談候事

一先格之通、主中様方より御肴三種・中野御氏より伊丹酒三升指出申候、右御肴御酒ニ而夜分御酒指上申候事

一宗六様御着悦ニ御出被遊候而、御面会有之候事

一当夜手前、勝次郎、利兵衛、文助相詰候事

九月五日

一今昼時前より御両所共御上京御挨拶トして御定之外ニ三軒、中野御氏御宅江御出被成候、御供持左ニ

一小林様 若当兩人
駕籠三人 相持

草履取老人
合羽籠老人

一弓崎様 右同断
外ニ釣台持兩人

右御供之内拾貳人、日雇五人者御手人ニ有之候、暮時過ニ御帰り被成候、途中より兵助御供仕帰候ニ付、昼夕飯代十貳人分、貳貫四百文兵助江相渡ス

一則兵衛様御着悦并御拝領物并土産物御礼御挨拶御出被遊候、凡御留守中ニ付、御口上書御出被遊候而引取被遊候

一次郎右衛門様御着悦ニ御出被遊候御留守中ニ付御申置被遊候

一中野御氏、西田御氏、一寸御出勤有之候事

一 豊三郎、手前、勝次郎、利兵衛、文助相詰候事
一 御兩所より西田御氏、豊三郎、手前、勝次郎江左三

殿様より

一金貳百疋

西田御氏江

御兩所より 五十

一 浅草海苔 桐箱入 右同断

田葉粉入 三ツ

同 三十

一 浅草海苔 桐箱入 豊三郎 兩人江

田葉粉入 三ツ 手前

同 一 浅草海苔 子供勝次郎江

貳十枚

右之通被下置候付、御糺申上候事

同六日

一 御兩所御上京御届御所用、兩御伝奏四軒、兩奉行御附江御

廻り被遊、五ツ時より御出御供揃左三

本使 若当貳人

一 小林様 駕籠三人 相持

草履取壹人

合羽籠壹人

鎗持壹人

副使

一 弓崎様 右同断

外二先払壹人

箱持兩人

右御供之内日雇拾六人、手人五人、以上貳拾壹人、昼時過
二 御歸り被遊候、昼飯代是より六百文、兵助代役吉江相渡
ス

一 昼後御所御見物、豊三郎、供壹人御案内申上、暮時過二御
歸り被成候

一 宗六様、次郎右衛門様、御拝顔、初土産物御礼御出勤被遊
候

一 中野御氏、西田御氏、一寸御勤被成候事

一 今晚より子供引取申候

同七日

一 御兩所五ツ時頃より東山道御見物暮時過三御歸り被成候事、
尤御供文助御出被成候、手前豊三郎、利兵衛、文助、相詰
候事

同八日

一 八郎右衛門様御拝顔物、御土産物、御礼御出被成候事

同九日之内

一 御即位相濟候上三而、大坂表江御内々御下り被成候付、見
上ケ物ハ箱数五十口并福田御氏江書状御届方相被預候付、
西田御氏江届方相頼候事

同九日

一 今四ツ時御所并西山辺、北野其外御見物、暮時前二御歸り
被成候事

一当夜手前引取、下男兩人相詰候事

九月九日

一当日早朝より出勤、御祝詞申上候

一宗六様、八郎右衛門様、当月御祝詞トして伊丹酒壺斗御指送り被遊候

一次郎右衛門様、当日御祝詞并御拝顔物御記ニ旁御出被遊候

一中野御氏、右同断

一七ツ時、豊三郎・手前御酒被下、御使被仰下候処、後刻宗六様、当日御祝詞御出被遊候、豊三郎・手前御同様ニ御酒被下候、中野御氏も中程より御出御酒被下候、且利兵衛へも御両所より御盃ニ被下候事

一手前、利兵衛、夜分共相詰、雇者人今晚より引取申候事

九月十日

一豊三郎、権兵衛、利兵衛、文助相詰候事

一中野御氏、西田御氏、一丁御出勤有之候

一宗六様より太刀魚味噌漬、御為持、則指上申候事

一御両所北東山辺昼時より御見物、利兵衛御供、暮時過御帰りに被成候事

一手前、利兵衛、夜相詰候事

九月十一日

一豊三郎、手前、利兵衛、相詰候事

一御振舞ニ而主中様方御案内有之、高台寺・松茸山御出被成

候、五ツ半時、手前御案内申上、御供不残、下川原吉兵衛

方参り、中野御氏御待合、同処ニ而御一緒ニ二階座敷ニ而指上候処、助八様、八郎右衛門様、御三方様御出被遊候、

御膳指上、八ツ時御同道ニ而、高台寺内御宝物御拜かん被成、七ツ時頃ニ高台寺役人御案内ニ而直様松茸山へ御出被

成候、暮時ニ御供所へ御帰り、御酒、重詰、御吸物指上、暮半時梅尾へ御出御膳御酒指出、四ツ時御帰被成候、手前

御供所取片付、梅尾より中野御氏同様四ツ半時引取申候、其夜直様店表ニ引取申候、且店表より下男三人罷出申候

一夜分利兵衛相詰候事

十二日

一豊三郎、手前、利兵衛、文助相詰候事

一中野御氏、今朝一寸御出勤有之候

一松平右京亮様御使者新家武兵衛様、昨日御上京ニ付、御挨拶、用達附添、川端九左衛門御出被成候処、御留守中ニ付、御申置帰りに被成候

一昨日御振舞為御挨拶御両所共主中様方御宅へ御出被遊候

一今夕船ニ而御下男鉄五郎殿、清五郎、大坂表へ罷下り被申候事

一夜手前、利兵衛相詰候事

十三日

一手前、豊三郎、利兵衛、喜助相詰候事

一中野御氏一寸御出勤有之候

一今朝五ツ時宇治見物、御出被遊候、御供不残、理兵衛御案内ニ参り候、暮時過御歸り被成候

一助八様一昨日松茸持ニ付、昨日御兩所様御挨拶御出被遊候、御礼ニ御出被遊候

一永野三歳様、昨日御兩所御出被成候、為御挨拶御出被成候

一今夕御供男鉄五郎殿大坂御歸り被申候

十四日

一豊三郎、手前、利兵衛、喜助相詰候事

一五ツ時御組合御使者方へ小林様御出被遊候、昼時過御歸り被成候

一昼時過弓崎様近所見物御出、暮時御歸り被成候

一小林様御所司御内、藤田権兵衛様へ御出被成候

一右御同所、七ツ時より見物、暮時御歸り、夜分御兩所御池八幡宮へ御参詣、豊三郎、手前罷出ル

十五日

一豊三郎、手前、利兵衛、喜助相詰候

一御供男清五郎、為介、五ツ時大坂より歸り被申候

一昨日用達中より合有之趣、中野御氏御出勤有之候

一中野御氏一寸御出勤有之候

一御兩所兩本願寺御拝見御出被遊御案内、高橋御氏、豊三郎御供出ル

一阿部能登守様御使者神谷与治右衛門様御出被成候、弓崎氏御逢被遊候

一太田撰津守様御使者島野十右衛門様御出被成候、御留守中ニ付承り置

一禁裡御附三口御門定番

下立売御門

木村新藏

佐々木庄右衛門

蛤御門

黒川弥太郎

田中市左衛門

寺町御門

山内伝兵衛

竹中三左衛門

右手札移出、田中市左衛門罷出、御用向等も御座候へば、被仰下候様申参り候間、御留守中ニ付承り置段申聞入候

十六日

一明日御上使御上京ニ付、御通り筋御見分有之、与力同心衆御廻りニ付、手桶斗り出し申候事

一中野御氏御出勤有之候

一水野惣兵衛様御内金沢八郎様御出被成候

一水野惣兵衛様御内金沢八郎様御出被成候

一水野惣兵衛様御内金沢八郎様御出被成候

十七日

一御上使御上京ニ付、御兩所門口迄御出迎御供揃、左三

若当兩人
一 小林様 挟箱壹人

鎗持壹人
草履取壹人

一 弓崎様 右同断

右之通御出被成候趣、御兩所御上下ニ而御出御上使役様御
通り之節御名札前々御渡し、後刻御通り節、御平服・鎗・
挟箱さげ候処、御名前御披露ニ而相濟申候、且若当

手前
上り帛 其外三人手前方より罷出候事

一 助八様、次郎右衛門様、拜見御出被遊候、御酒、御料理御
出被遊候、昼後御膳御兩所より御膳御指出被遊候、次郎右
衛門様御歸りニ付、後刻御菓子御送り被遊候、則手前より
御台所小兵衛江申上置候事

一 中野御氏御出有之候

一 豊三郎、手前、利兵衛、文助、喜助相詰候事

一 井上勘三郎一寸参り候事

十八日

一 豊三郎、手前、利兵衛、喜助相詰候

一 御上使御上京ニ付、松平出羽守様、高家兩軒并室町佐藤へ
五つ時御供役ニ而御出被成候

若当兩人
一 小林様 挟箱壹人

鎗壹人
草履壹人
駕籠三人

一 弓崎様 右同断

外二

先扨壹人

釣台貳人

合羽籠兩人

右之通御供持も御出被成候、兵助より拾六人、御小人五人、
兵助日雇昼飯代壹人、四百文相渡申候、釣台持兩人八昼前ニ
而引取申候ニ付、遣し不申候

一 中野御氏御出勤有之候

一 松平伯耆守様御使者鞍岡四郎右衛門様并御留守居渡利行蔵
様御出被成候

一 今晚六角堂御参詣有之候

十九日

一 豊三郎、手前、利兵衛、喜助相詰候事

一 中野御氏御兩所へ蕎麦御指上候事

一 御薬師森江甚右衛門罷出申候

一 御組合御使者方へ御出被遊候

一 七ツ時北様へ御出、御膳・御酒御指出有之由

一 大津御本陣吉本弥四郎手札指出歸ル

廿日

一 豊三郎、手前、利兵衛相詰候事

一 中野御氏一寸御出勤有之候

一 奥田仁左衛門殿、名代加地甚助殿参り被申候而、徳大寺様

より御目録受取歸り被参候付、則御兩所へ差上置申、中野

御氏へ右様相達候事

一 宗六様八ツ時頃御出被遊候、奥ニ而御菓子斗りニ而御歸り

被遊候、後刻三幅対入御掛物并大塩一件聞書為御持被下候

間、受取書指上兩所様へ上ヶ置申候

一 助八様より御台所手代衆老人御使ニ而常家餅御兩所様へ御

持セ、則指上申候

廿一日

一 中野御氏一寸御出勤有之候

一 御兩所四ツ半時御供不殘嵐山、梅宮、松尾御見物、利兵衛

御供、暮時前ニ御歸り被遊候

一 権三郎、利兵衛、文助、相詰候事

一 豊三郎、再々参り被乗候事

一 御兩所より江戸表へ指下方御形候付、則本六日限ニ而指下

申候筈

牧野兵部内

江戸日比谷御門屋敷

小林仙八郎殿江

紙返状箱迄

京都御旅宿

小林十郎左衛門

江戸日比谷御門内

牧野兵部内

中村判藏殿江書状巻封

御旅宿

弓崎為右衛門

一 八郎右衛門様より御所南門ニ而古筆竹堀出し候嶋田□□より

り指出被申候間、御兩所へ指上可申候旨、中野氏より被仰

聞、則指上申候

一 次郎右衛門様より御上使之節御出被遊候節、御酒御菓子被

遣、為御礼若狭小鯛肴為御持則指上申候

廿二日

一 今晩七ツ時安藤様御使者より御手昏参り、尚又当御二方様

兩人御使ニ御遣し有之候

一 今晩六ツ時水野惣兵衛様御使者より御使、与兵衛御逢被成

候而、後刻御所御見物御出、四ツ時御歸り被遊候

一 中野御氏御出勤有之候

一 中野御氏七ツ半時より御出勤、夜五ツ時過御歸り有之候

一 小林様昼後御上使兩伝奏御目附并牧野備前守様御使者御旅

宿へ御出被遊候、御供左ニ

若当兩人 御手人
草履取壹人

駕籠 兵助より三人相持

右七ツ時前ニ御歸り被遊候付、駕籠之者三人江夕飯代三百文、相渡ス

一 今夕方々高家衆御役人之内、御両所様へ御逢ニ御出被成候
一 明日曉八ツ半時、御所へ御出被成候付、北様より御装束付人亀屋仙助内、新助与申人被參候、暮時より初夜時過ニ、罷歸り申候
一 夜分手前、利兵衛相詰候事

廿三日

一 御即位御当日ニ付、北様より先格之通御出役有之、右御出役之内、御両所様今曉八ツ時より御装束ニ而、堺町通夷川上ル塚本建八郎様方へ七ツ時前御待合候之処、嶋田氏被參御同道ニ而四方門江御出被遊候付、店より持參之御弁当御両所へ御渡申上、引取申候、尚又昼後塚本氏江御供手前指出可申筈之処、四半時御歸り被遊候付、御装束跡より取ニ御遣し御座候

一 西田御氏一寸御出勤有之候

一 手前、利兵衛、相詰候事

一 文助下三人之衆鞍間へ案内參り候事

一 豊三郎再々參り候

一 中野御氏今晚御出勤有之候

一 松下下総守様御使者御役御所御尋ニ付、西田御氏聞合之義相頼候事

廿四日

一 手前、利兵衛相詰候事

一 小林様、今朝水野惣兵衛様御使者江御出、無程御歸り被遊候

一 御送り物御目録、中野御氏へ子供定次郎を以取ニ御遣し候付、相渡ス

一 御所跡拜見、下々衆、不殘昼後罷出、八半時御歸り有之候
一 御所司酒井若狹守様御公用人より小林様江御切紙參り、御返上御遣し、直様御出勤被遊候、無程御歸り御座候
一 八郎右衛門様御出被遊、奥江御通り御両所御逢被遊候
一 高家御役人小松即右衛門様御出、弓崎様御逢

廿五日

一 手前利兵衛相詰候事

一 弓崎様今朝御組合御大名様へ御出無程御歸り被遊候
一 小林様今四半時御所司江御使者方惣御出仕被遊候付、御出被遊候、御供持左ニ

若当式人

駕籠之者三人 相持

箱持老人

鍵物老人

草り取老人

右之通○印之分ハ兵助日雇、残り御手人、七ツ時過御帰り

被遊候付、昼夕飯代八百文相渡ス

一 今朝中野御氏御出勤有之候

一 今夕太田撰津守様御使者、須貝三郎兵衛様、島野十右衛門

様より御兩所御宛之御廻章状参り、御返事御遣し被遊候

一 阿部能登守様御使者、神谷治右衛門様より御状参り、後刻

初夜時過ニ御返上御遣し被遊候事

廿六日

一手前、利兵衛相詰候

一 今五ツ時過、弓崎様御所方様へ御廻状御請ニ御出勤被遊候

一 愛宕山長床坊使僧、近藤自菴殿御上京為挨拶入来ニ付、口

上之儀承り置

一 昼前松平出羽守様御留守居川崎五郎左衛門様より牧野兵部

様御留守居様宛之御状参り御返上御遣し被遊候、御使若当

老人御役所小使衆付添参ル、明廿七日御上使御参代之趣小

林御氏被仰聞、其儀中野御氏江申参ル

一 佐藤源兵衛より御兩所へ御菓子箱壹ツ指送り被申候

一 宗六様夕立ニ御出被遊、御兩所御逢被遊候

御菓子御指出候

廿七日

一 今日御上使御参代ニ付、御所司、高家衆御通り拜見、御兩

所六半時より御出、中立売通西洞院東江入、小浜屋藤兵衛

方へ御出、其後御所御参代拜見、昼時過ニ御帰り被遊候

一 御所司より廿八日九ツ時御出被遊候様御状参ル

一 御留守中土屋采女正様御使者藤治縫右衛門様御出被成候

一 昼半時御上使高家御所司へ小林御氏御出被遊候

若当 式人

草り取 老人

○釣台持 式人、兵助より

右○印之分、兵助より雇、八半時御帰り被遊候

一手前、利兵衛、文助相詰候事

一 豊三郎御上使拜見、御兩所御出被遊候付、廿六日晚より参

り居り候九ツ時引取り申候

一 宇治薬師森江惣右衛門より御兩所へ書状参り御渡申上候

廿九日

一手前、豊三郎、利兵衛、文助相詰候

一 小林様、弓崎様より御状壹通ツ、宗六様へ昨日拜見為御接

拶御送り被遊候

一 中野御氏一寸今朝御出勤有之候

一 四半時、御所司御上使御逢候付、小林様御出被遊候、御供

左二

若当 貳人

内耆人 ○印

駕籠 三人

挟箱持耆人

○ ○ ○ ○
鏈物 耆人

右之通○印之分ハ兵助より雇、夕飯代六百文相渡ス、七ツ

半時御歸り被遊候

一 昼時御上使御逢ニ付、弓崎様御出被遊候、御供左二

若当 貳人

内○印耆人

○ ○ ○ ○
駕籠 三人

挟箱持耆人

○ ○ ○ ○
鏈物

右之通○印之分ハ兵助より雇、七ツ半時御歸り被遊候、夕

飯五百文相渡ス

一 中野御氏今夕一寸御出勤有之候

一 高橋市三郎殿江浅草海苔箱耆御所より御送り被遊候付、

伝七遣ス

一 牧野備前守様御内木村長左衛門様御出被遊候、御申置被遊

候

廿九日

一 木嶋神主神服超造殿御起源御親参り申置被歸候

一 今六ツ半時、御上使御通りニ付、道筋見分、与力同心衆御

通り有之候手桶森すな指出申候事

一 今六ツ半時、小林様急御病氣ニ付、早速中野御氏逢ニ遣し候処、御出有之、藤田を付、医師近所ニ付逢ニ参り、其後追々御出被遊候、御人数左之通

烏丸御池上ル

室町夷川上ル

鎌田兼吉様

新宮涼珉様

小林豊後守様

六角烏丸東へ入
辻検使様
辻主殿様

新宮涼庭様

室町四条上ル
山本静水様

△右御医師方

一 宗六様・助八様・次郎右衛門様・八郎右衛門様、御詰被遊候

一 則兵衛様御出被遊候

一 永野三藏様、島野十右衛門様、朝御出被遊、昼後御出、暮時過御歸り被遊候

一 豊三郎、手前、利兵衛、文助、相詰候事

一 伝兵衛殿、勝助殿、新四郎殿、吉兵衛殿、幾三郎殿、乾儀助殿、井上勘三郎殿、相詰候事

一下男卯兵衛、仙助、喜助、京助参り候事

右之通、相詰居候処、終二御養生不相叶、八半時御死去被遊候、残念千万奉存候、委細ハ此処ニ相談ニ参申候

一祇園御社、北野御社へ御祈御願申上候歟申談候事

一当夜勝助殿、新四郎殿、儀助殿、勘三郎殿、儀三郎、卯兵衛、喜助、相詰候事

一手前、豊三郎、利兵衛、文助、相詰候事

一御副使高家より御雇入、弓崎御氏御同役位之御人、小朽勇右衛門様、今日より御出被成候、外ニ御供屯人、利兵衛殿ト申人被参候

出日

一江戸より小林御氏御供人、草り取鉄五郎、今五ツ時江戸表へ御用向有之、歸り被申候事

一今日弓崎御氏、小林御氏之御病氣御届ニ御出被成候

一駕籠 三人

右昼時過参り、七ツ半時ニも相成夕飯代三百文相渡ス

一伝兵衛殿、勝助殿、新四郎殿、勘三郎、儀助、幾三も参り候事

一下男卯兵衛、喜助参り候事

一豊三郎、手前、利兵衛、文助相詰候事

一小林御氏御病氣之躰ニ而出水通千本西江入、高□□へ勘三郎、儀助参り候事、店より市三郎殿被参候事、御代之人江

御附人之金兵衛、清五郎、卯兵衛、鉄五郎、内々ニ而曉七ツ時参り、六ツ時ニ歸り被申候

一宗六様御扇子御持参被下、弓崎御氏御留守中ニ付、手前預り置、且小野氏へ御逢被遊候、無程御引取被遊候

一徳藏院参り被申候事

一御上使無故障、今五半時頃江戸表へ御歸り被遊候

一宗六様より小林御氏へ御遣し之三幅対入箱之、店へ遣し置、此訳御出之節申上置候

一今晚中野御氏御出勤有之候

朔日

一御即位御所御内見ニ付、今五時過ニ御出被遊御供左ニ

弓崎御氏

一若当 貳人

一駕籠 四人

長持也

一鎗物 壹人

一箱持 壹人

一合羽駕籠 壹人

一草り取 壹人

小野氏

一右同断 人数

一押 壹人

一下座見 壹人

右之通御手人五人、兵助より日雇拾七人、都合弍拾弍人、

但、昼飯代壹貫七百文、兵助代へ相渡シ置申候、中野御氏

御同道ニ而、供芘人参り候、暮時過御帰りに被成候、日雇へ

夕飯代壹貫七百文、兵助代へ相渡ス

一 豊三郎、手前、利兵衛、文助、相詰候事

安藤様御使者へ 同筆役へ 太助様御使者へ

一金弍百疋 一金百疋 一金弍百疋

右之通小林御氏、御病氣ニ付、副使御世話、其外万端御世話ニ付、今日御手紙御送り被成候

一 今日弓崎御氏より晦日迄之勘定申上候様被仰聞候

一 今晚水野三藏様、御出御兩所御相たん有之、中野氏同席相

渡、九ツ時頃へ御行も被成候、御酒御料理被進候跡ニ而下

迄一同御盃被下候

二日

一 御兩所御宅々へ昼後御出被遊候

一 小松御氏より御宅々并中野御氏へ御挨拶御兼御出被成候

一 右御同人より御宅へ中野氏へ御遣し物左ニ

海苔 箱ニテ
御宅々

多葉粉入 箱ニテ

右御遣し被成候ニ付、手前より店へ為持遣し申候

一 右御師へ参り相違候事

一 豊三郎、手前、利兵衛、文助相詰候事

一 小松御氏へ主中様方より之御肴三種参り候事

一 今夕小林御氏一七日御たい夜相勤可申談被仰聞候

一 中野、西田、井上、乾、家内一統御飭被下候事、跡ニ而、

小松御氏へ参り、御肴ニ而御酒被下候

三日

一 八郎右衛門様、次郎右衛門様、昨日御兩所御出被成候、為御挨拶御出被遊候

一 島野十右衛門様御出被成候、御菓子御出し被成候

一 中野御氏献上物御持参有之候事

一 豊三郎、手前、利兵衛、文助相詰候事

一 今日出水御寺へ清五郎殿被参候事

一 昨日御肴之内鮪三望候儀被下候

四日

一 今日御献上三付、六半時御供持ニ而、五ツ時御出被成候行

列書者、別帋ニ有之候、寺家門前二十四組僧御下鉢ニ相居候、尤御岡持ニ付候

十月四日

一 今日御献上三付、本使弓崎御氏、副使小松御氏、上才領、手前、下才領、用達、兼中野勝助殿、兩人御長持、兩方ニ

附、則行列八別帋ニ相認候、下立売御門前ニ駕籠其外御道

具類相扣居候、弓崎氏上下若当三人小松御氏、羽折、若当
 式人、中野御氏、手前、御長持三付参り候、依之茂草り取
 忝人ニも連候、本使・副使并中野御氏、若当、草り取、御
 門着ニ而御休息、大和屋喜久松より弁当仕出し致候事、手
 前并指物屋平兵衛、御長持三附、弥左衛門、同家門前ニ扣
 居候、無程献上三付、追々御よみこと有之候、則御長持
 右手前草り取 本使上下若当三人草り取
 左中野草り取 副使羽折若当——草り取 御献上相濟、尚
 又有家門ニ扣居候、無程罷上三付、大宮御所へ参り評判前
 之通り、右相濟、中野、手前、橋平、長持附引取申候、御
 両所へ直様御所司へ御出、七半時御歸り被成候
 一宗六様、今夕方ニ御献上、無滞相濟候、為御挨拶御出被遊
 候、御両所御逢被成候
 一井上勘三郎参り候事
 一豊三郎、権三郎、利兵衛、喜助、相話候事
 五日
 一今日、用達中より合有之候、中野御氏御出逢候
 一今日御所司兩伝奏御付兩奉行江小松氏御出先者例之通、干
 鯛、こんふ、目録御持参、四ツ時御出、昼半時御歸り被成
 候、御供左ニ

兵助より
 一駕籠 三人相持
 一合羽籠 忝人
 一つり台 三人
 但、手替り忝人ツ、
 手人
 一若当 兩人
 同
 一つり台 忝人
 才領
 一草り取 忝人
 右之通兵助日雇七百文、兵助代へ相渡ス
 一水野惣兵衛御使者金沢次郎、小林様御病氣為御見舞参り被
 申、御申置、歸候
 一豊三郎、手前、利兵衛、兵助、参り候事
 一北野天満宮、七日御祈御札御供物店より、西田氏より参ル
 一御即位御献上、為被濟間、御挨拶御看一折三拾鯛、主中
 様方より之御名前ニ而店より参り候処、安藤様、御判役水
 上九八郎様御出有之、右看ニ而御酒出ル、高橋氏参り被申、
 夜九ツ時ニ相濟申候
 一八郎右衛門様、次郎右衛門様、献上為被濟候間、御挨拶御
 出被遊候
 一則兵衛様右同断

一中野御氏一寸御出有之候

七日

一今日勸善ニ付徳大寺様へ弓崎氏御出被成候、五ツ時より御

供持、左ニ

一若当 三人

内手人 壹人

一先払 壹人

一駕籠 四人

一鎗物 壹人

一箱持 壹人

一長柄傘 壹人

一合羽籠 壹人

一草り取 壹人

手人

〳十三人、手人貳人也

手前用達ニ而出ル

右之通立ほし方より成手合金川屋町光法寺へ十四組一統御待合、昼時頃ニ御案内有之、徳大寺様ニ相当り有之候、右

ニ而一統相待、追々達有之候、二度ニ相渡、八ツ時無滞相濟、直様所司様へ御届相濟、七ツ時御泊まり、兵助日雇、

夕飯代壹貫百文相渡儀、祝義、昼飯代ハ跡より相渡シ申候筈

一今昼時前より小松御氏、記物ニ御出被成候、御供左当りへ

御出有之、中野御氏同道ニ而、御出有之候、御供左ニ

一若当 貳人

手人 壹人

一箱持 壹人

一駕籠 四人

一箱もち 壹人

一合羽籠 壹人

一長もち 兩人

一草り取 壹人

手人

一鎗物 壹人

手人

一中野□□□□壹人

〳十三人

右之通御出被成候、日雇夕飯壹貫百文相渡し、祝義ニ昼

飯代跡より七ツ半過ニ御帰リ被成候

一取替物、惣□申上候様被仰聞候

八日

一中野御氏御出有之候

一今八ツ時甚次郎御出有之候、御両所共御供三人御出

一御所方御内藤田権兵衛様御出、弓崎御氏御留守中ニ付、私

へ御越有之、小林御氏、御大病之義御内々御尋有之、委細申上候処、尚又御尋も有之、弓崎氏江御事附有、御帰り被成候、御相ハ加藤一治郎様へ御事附有之候
一種三郎、豊三郎、利兵衛、文助相詰候

九日

一中野御氏御出有之候
一御荷物御こしらい有之候
一手前、豊三郎、利兵衛、文助相詰候
一勘定書下書、酉日よりや中野へ受取

一八郎右衛門様御出被遊、御酒出、暮時前二西口中野御氏御

供御両所御供惣助殿被參候

一小林御氏御病氣三付、御出有之候、薬師書付大印上候

十日

一豊三郎、手前、利兵衛、文助、相詰候
一中野御氏御出有之候
一助八様御出被遊候、弓崎様、小林様御逢被遊候
一宗六様、次郎右衛門様、御出被遊候、弓崎様御逢被遊候、奥江御通り有之

一中野御氏御出有之候

一小松様近所御見物御出有之

一弓崎御氏御宅々へ御出被遊候

一豊三郎、手前へ金貳百足ツ、利兵衛江金百足、外二中野

御氏へ金三百足、外二金貳百足、西田御氏へ弓崎氏より御

渡し、中野御氏御受取、夫々御渡し有之、御礼申上候

一兵助参り祝之義引合御当候、四日斗り老人前百文ツ、兵助

へ相渡ス、御献上相濟候御勤善御祝義ハ遣し不申候

一飯代四日・七日昼時之分店表より相渡ス、尤兵助方二而弁

当渡ニ付、弁当代相まし候

一嶋田氏へ弓崎御氏より先日之為御挨拶多葉粉入箱老御送り

被遊候、中野氏より預り置

十一日

一豊三郎、種三郎、利兵衛、弁当相渡候

一中野御氏御出有之候

一八郎右衛門様暇乞御出被遊候、奥へ御通り御菓子出ル

十二日

一豊三郎、種三郎、利兵衛、文助、喜助参り候

一中野氏、西田氏、井上氏、参り被居候

一今七ツ時弓崎御氏御出立、大坂へ御廻り被成候、御供

真助殿 菊兵衛殿 昼時ニ御出立、御膳御酒御看持参、伊勢

金兵衛殿 屋参り候、相濟之上加島屋へ参り、御機嫌克御帰りに被成候、

手前、西田氏、三条烏丸迄参り、中野氏、藤田氏、柳茶屋

御見送り、伏見肥後やへ利兵衛御見送り参り、引取申候、

尤御暇乞申上候事

一 弓崎様より佐藤・嶋田へ書状御願ニ付、受取、西田御氏を以相頼候事

一 中野御氏へ日雇之儀候、今夕参り御内々掛り候事

一 右金高十式両沓歩、店より受取帰り、翌朝相渡可申管候処、

源三郎殿持参受取

一 小松御氏今夕近所御出被成候

十三日

一 今七時、小松御氏江戸表へ御出立ニ付、御旅宿へ中野御氏御暇乞御出、烏丸三条迄御見送り、御引取、手前、蹴上

ヶ加賀屋迄御見送りに申上、尤々菓子十、代式匄指出申候

処、其儘ニ付御駕籠へ入置、此段申上候、右ニ而御暇乞申

上并前御供清五郎殿、利兵衛殿へ暇乞申、引取申候、茶代

百文手前方より遣ス

一 豊三郎殿、同様蹴上ヶへ御出被下、御見送り申上、引取被

申候

一 手前、豊三郎、利兵衛、文助、喜助参り候

一 今日諸道具類、追々被引取申候

一 町内へ豊三郎引取候届、被参候由、此段尚心得扣置候事

一卷、昨日引取申候事、御承前ニ而夜分とり申候

一 今朝小松御氏へ金拾式両沓歩相渡受取書申談、中野御氏相

渡可不申上管

一 御見送り雨天ニ付、下駄・傘ニ而参り候事

一 小松御氏大津迄駕籠人足三人へ酒代四百文ツ、沓貫式百文相渡ス

一 小松御氏本馬沓足代九百四拾式文、藤田町内馬出候処へ相

渡ス

七百五十文ノ

式百文増二候

十月廿日

一 弓崎氏大坂御用向相済、今日石部宿御泊りニ付、利兵衛一

日荷附添御見送り等ニ参り、馬代取初八百五十文、桐油代

沓貫式百五十文、宮へ帰り、御機嫌克御帰府被遊候、目出

度々々々

右ニ而無滞相済大慶千万奉存候

(裏表紙)

7 掛物控

(表紙)
嘉永元戊申年四月改

掛物控

拾四一 寿老人 周信改
法眼如川筆
耆幅 (印) (印)

拾五一〇 松旭鶴 応挙筆
右箱蓋裏書円山応瑞証之
耆幅 (印) (印)

拾六一〇 蓬萊山 呉春筆
耆幅 (印) (印)

拾七一 富士山桜賛有 法橋弓喬久筆
横もの 耆幅
是幅為遺物中野氏江贈ル

拾八一 富士山賛有 呉春筆
横もの 耆幅
出

拾九一 寿老人 山本宗川筆
大堅物 耆幅
是幅為遺物窪田氏へ差贈ル

式拾一 鯉之画 南岳筆
耆幅 (印) (印)

式拾二 孔明 南岳筆
横もの 耆幅

式拾式一 巖蘭 養川院筆
横もの 耆幅 (印) (印)

式拾三一 林和清 探信筆
酒 耆幅

式拾四一 梅鶯 伊川院筆
横物 耆幅

中村藤兵衛殿へ是幅遺物ニ送ル

式拾五一〇 鶴 守政筆
式幅对 (印) (印)

式拾六一〇 花菖蒲河骨鳥 英一蝶筆
耆幅
积是輪為遺物大仏江贈ル

式拾七一〇 山水之画 竹洞筆
耆幅 (印) (印)

式拾八一〇 中寿老人 岡本豊彦筆
右靈芝岩 三幅对 (印) (印)
左篠水

式拾九一 刀室先生忠恕二字 耆幅
酒

三拾一	虎之画 酒	岸邪筆	三拾九	万歳	嵩之筆
三拾一	閑院典仁親王讃 風墨焔郷画	老幅	豆符	式幅対	出
三拾一	茅鷺	長谷川等益筆	四拾一	梅尾長鳥画	俊貞御筆
三拾一	蓬萊山	老幅(印)(印)	四拾一	蜀山人先生墨跡	老幅(印)(印)
三拾一	高祐様御画嘉粟様御讃	老幅(印)(印)	四拾一	是幅為遺物中村吉右衛門殿へ贈ル	老幅
三拾四	富士山賛有 横物	酒井志道公御筆	四拾一	戴之内竹心文 小横物	老幅
三拾五	師忝来	月僊筆	四拾三	雲龍画 酒	萩坊筆
	横物	老幅	四拾四	玉之画	老幅(印)(印)
	是幅為遺物山中氏へ贈ル		四拾五	万□和尚墨痕	老幅(印)(印)
三拾六	釋是一	老幅	四拾六	蓬萊	伊川院筆
三拾七	墨竹画	老幅(印)(印)	四拾七	濡鷺 酒	晴川院筆
	万集路様御賛方	出	四拾八	婦人図 酒	老幅
三拾八	富士山 横もの	法眼春卜筆	四拾九	運生法師八十歳賀歌 横物	老幅(印)(印)
		老幅(印)(印)			老幅
					紀州加納大隅守様御筆

五拾一 百催和尚墨跡

壹幅 (印) (印)

山口素絢筆

五拾壹一 尉姥

壹幅 (印) (印)

大横物

伊川院筆

五拾貳一 竹龜画

壹幅

長沢蘆州筆

五拾三一 月之画

壹幅 出

出

酒井抱一様御筆

五拾四一 秋草画

壹幅 出

長沢蘆雪筆

五拾五一 花鳥画

壹幅 出

出

山本探渕筆

五拾六一 消 養老瀧

壹幅

五拾七一 白隱禪師自画讃

壹幅 出

出

山高之筆

五拾八一 蘭之画

壹幅 (印) (印)

五拾九一〇 五節句御歌

五幅入一箱 (印) (印)

六拾一 芦雁画 探鯨筆 出

但中野道采殿遺物

六拾一一 日光山華嚴瀧画 長沢蘆雪筆 出

壹幅 出

六拾貳一 白菊画 永祥筆 出

壹幅 出

出

六拾三一 草画之山水 永祥筆 壹幅

横物

是幅為遺物西田氏へ贈ル

六拾四一 武者画 宗六様御筆

但、箱蓋ニ高福様御書附有

宗六様御本卦御祝ニ而為被下候

高福様御筆

六拾五一 福祿寿 壹幅 (印) (印)

高福様御筆

六拾六一 菊之画 長沢蘆剛筆
横物 老幅（印）

是幅為遺物小野宇兵衛殿へ贈ル

六拾七一 雪中之人物 英一蝶筆
横物 老幅
出

六拾八一 真画之山水 永祥筆
老幅
是幅為遺物中井氏へ贈

六拾九一 尉姥画 岸駒筆
老幅（印）（印）

但、宗雅様御遺物被下候
是幅為遺物中野氏へ贈ル

七拾一 酒 富土山 探幽筆
大横物 老幅

嘉永二酉年三月
金老向二売払
但、糸茂引取物之内

七拾二 水呑ノ 英信筆
虎之画 老幅（印）（印）
横もの

七拾式一 蓬莱山 高福様御筆
老幅（印）（印）

扇地紙張 蜀山人賛 老幅

小横もの
此分先年よりなし

一 葛花 長沢蘆雪筆
一 酒 秋草鳥 老幅
大堅物 大仏江贈ル

七拾四一 日の出羈 蘆節筆
大横物 老幅（印）（印）
五条遺物到来

七拾五一 名月画 養月院法印筆
老幅（印）（印）

(2) 高名画人一覧

文明	雪舟等揚	寛政	月溪吳春	当时高名画人
慶安	探幽守信	明和	渡辺南岳	京 岡本豊彦
寛永	狩野山雪	享保	英一蝶	江戸 抱一上人
慶安	自適尚信	寛政	長沢蘆雪	京 景文
元文	如川周信	天正	雲谷等益	
元文	望月玉蟾	天明	大岡春卜	

宝永 養卜常信
天明 円山応挙

林与七

(3) 掛物控

出 一 天満宮
但、神棚二有 沓幅

出 一 雛之画

山口素絢筆
沓幅

一 巴御前

観礼筆
沓幅(印)(印)

一 惠美須
大黒天

式幅对(印)(印)

一 大黒天

宗清様御筆
沓幅(印)(印)

一 大黒天

鶴嶺筆
沓幅(印)(印)

一 大黒天

観礼筆
沓幅(印)(印)

一 大黒天

高福^{コシ}様御筆
沓幅(印)(印)

出 一 唐舞木折短冊掛
戊申年御讃有

沓箱

〔裏表紙〕